



GIFU UNIVERSITY

国立大学法人

岐阜大学概要 | 2016

目次 Contents

学長挨拶	01
岐阜大学の理念と目標	02
岐阜大学憲章	03
岐阜大学の教育における 3 つの方針	04
環境への取り組み	05
運営組織	06
教育研究組織	07

教 育 学ぶ岐阜大学	
教育推進・学生支援機構	14
特色ある教育改革の取り組み	16
学生数	17
入学状況	19
学部卒業者数・進路状況	20
国家試験合格状況・教員採用状況	21
大学院修了者数・進路状況	22
学生支援施設	24
学生サークル活動	25

研 究 究める岐阜大学	
研究推進・社会連携機構	26
特色ある研究の取り組み	27
科学研究費助成事業	29
共同研究・受託研究	30
発明届	30

社会連携 貢献する岐阜大学	
地域連携	31
公開講座・シンポジウム・フォーラム	32
市民大学講座	32
高大連携	32

国際交流	
留学生受入・派遣状況	33
学術交流協定締結大学等一覧	35
研究者受入・派遣状況	37
国際交流会館	37
海外オフィス	37

組 織	
役員等一覧	38
役員・職員数	40
予 算	41
寄附金	41
沿 革	42
歴代学長	43

キャンパス	
建物配置図	44
土地・建物	46
所在地・交通案内	48

学長挨拶 President's Message

国立大学法人岐阜大学は「学び、究め、貢献する」「人が育つ場所」であり続ける、これが現在まで継承してきた、また今後とも継承する私どもの存在理念です。この理念に立脚して特に2016－2021年の第3期中期目標・中期計画期間に、岐阜大学は「地域活性化の中核拠点であり、かつ特定の強み・特色を有する領域で国際的／全国的な拠点をなす」大学となります。なお後者の領域としては生命科学、環境科学、次世代ものづくり、医学教育開発を宣言しました。

さて、本学は5学部、8大学院からなる中規模総合大学ですが、2004年の医学部・附属病院移転をもって全学部の現在地統合が完了しました。さらに敷地内には岐阜市立岐阜薬科大学5・6年生用校舎・研究施設が建設され、2015年4月には清流の国ぎふ防災・減災センターも開設、2016年には岐阜県中央家畜保健衛生所が竣工します。さらに岐阜県食品科学研究所も2018年の移設に向け準備が進行中であり、総合的な高等教育・研究の中心として一層の機能強化が図られます。なおキャンパス各施設の現状はこの概要の建物配置図(44－45ページ)でご覧になれます。自然豊かな郊外のワン・キャンパスで学習できるという環境は岐阜大学の売りです。

一方、とくに都市部の大学では都心回帰が盛んなことは十分承知しています。岐阜大学についても多くの学生や職員から通学の不便さ(岐阜駅からオフアワーでも約30分)が指摘されています。このような動き、要望に対する私どもの対応は駅前サテライト・キャンパスの開設です。JR岐阜駅前2棟目の高層ビル「スカイウイング37」(37階建て)の東棟4階部分を借り切り、2012年10月に新しい教育セクションを設けました。IT設備も万全です。さらに岐阜大学のみが使用するのではなく、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜に参画する22校(大学、短期大学、工業高等専門学校)との共同利用や、市民を対象としたセミナー、企業の催しについても、趣旨がサテライト・キャンパスの目的にそぐうものであれば受け入れ可能とし、実際、週末も含めかなりの使用実績を挙げています。特に2016年スタートの新しい試みは、サテライト・キャンパスにおける全学共通教育1限目の8時開講です。JRや名鉄で通学する学生諸君はこの講義を選択し2限目以降を柳戸キャンパスで受講すれば、朝のバスターミナルの混雑や交通渋滞を避けることが出来ます。また本学名誉教授陣による「岐阜大学サテライトキャンパス公開講座“アカデミッククラブ”」も2016年4月にスタートしました。これは一般市民を対象とした学問・文化の香り高いシリーズで、既に300名を超える聴講申し込みを受け進行中です。

次に、これからの岐阜大学がどのような方向に進んで行くのか。私どもは「人が学び育つ場所」としてあるべく各学部、各教職員が懸命の努力を積み重ね、人材すなわち高度職業人をこれまで多数輩出してきました。最近では、文部科学省の「地(知)の拠点(Center of Community; COC)」獲得、その発展型であるCOC＋事業の展開、南アジア地区における17大学からなる農学系博士教育連携コンソーシアム(IC-GU12)結成、44大学からなる工学国際ネットワーク形成、「金型人材育成事業」、「救急救命ネットワーク構築事業」、「国際教養コース」開設など、地域活動から国際活動まで全国のモデルとなる大き



な実績を上げています。これらをもって岐阜大学のプレゼンスを中部以外の地域や全国、また国際的に一層向上させ、学生諸君、保護者諸氏、地域住民の皆さん、一層高い評価を頂戴できるよう率いるのが小生の責務と考えます。

また私どもはこれらの実績に大きな自負を抱いていますが、一方、私どもの教育、研究が地域の、全国の、さらには国際的な需要に合致するか否かを常に検証することの重要性も十分理解しているつもりです。なかでも今後は特に大学のグローバル展開がきわめて大きな重要性を持ちます。これまで以上に相互の流れを大きくすること、外国人留学生を現在の400名からより多く受け入れることに加え、まず岐阜大学の学生が海外へ出かけその地における様々な需要(課題)を把握し、岐阜大学でそれを解決する研究・学習を遂行する、その回答を持って真の海外貢献を行う、これらが私どもの目標です。すなわち地域に根ざした国際化を展開し、その成果を国内外の地域に還元する「グローバル」なサービスを大学として行うことが重要です。また同様のアプローチを国内の様々な地域貢献についても行う、COC事業、COC＋事業の神髄はここにあると考えます。

世にいう学長のガバナンスはこれらを実現させるためのシンクタンク機能を形成し、それを指導する能力であり提案する能力と捉えています。大学のグローバル化はその実現経路上に予測でき、行き届いた視野を持つことにより現出するものと考えます。広く皆さんとともに進んで参ります。

岐阜大学長 森脇 久隆

学び，究め，貢献する

【理念】

岐阜の地は，清流の国と称される豊かな自然に恵まれ，東西文化が接触する地理的条件や歴史的な背景による多様な文化と技術を創造し，伝承してきた。岐阜大学は，岐阜の地のこのような特性を継承するとともに，「人が育つ場所」という風土の中で「学び，究め，貢献する」人材を社会に提供する。そして法人自体も「学び，究め，貢献する」地域にとけこむ大学であるべきことを理念とする。

岐阜大学は，全ての学部・研究科が 1 つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし，特に，高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育，教育の基盤としての質の高い研究，地域に根ざした国際化を展開する。さらに，これらの成果を地域還元することなどにより，地域社会の活性化の中核的拠点として，地方創生の一翼を担う。

【目標】

1. 教育

岐阜大学は，学生の主体的な学びを推進し，教育の質保証システムを充実させ，高度な専門職業人の養成と地域単位での Teach for Communities を実現する。理工系の大学院修士課程に，デザイン思考の教育を導入し，リベラルアーツに関する共通教育を重点的に行うことによってイノベーションを支える人材の養成を強く進める。また，国際水準の医学教育開発の推進などに重点的に取り組む。

2. 研究

岐阜大学は，教育の基盤としての質の高い研究活動をそれぞれの分野で着実に実践する。その中でも本学の強みである生命科学分野，環境科学分野，ものづくり分野における岐阜大学の独創的な研究領域の先進的研究拠点形成を目指し，その成果を社会に還元する。

3. 国際化

岐阜大学は，地域に根ざした国際化と成果の地域還元によってグローバル化を実現する。多文化共生型による国際教養コースの設置，日本人学生と留学生の混在型教育の充実，留学生の組織化や就職支援の充実など，国際化につながる施策を推進する。

4. 社会貢献

岐阜大学は，地域志向を重視した教育，研究を実践し，国際化を推進することにより地域社会を支える。特に「地」×「知」の拠点（COC）整備事業は，県内外の他大学，自治体，地元企業等との連携を拡大したCOCコンソーシアムを形成することにより，地方創生推進事業への取り組みを一層量的に増大，質的に深化させる。また，大学病院を中心とした地域における高度医療拠点機能のさらなる充実，岐阜県と連携した地域社会への貢献事業を推進する。

【学章】



デザイン 元岐阜大学教授 坂井範一

1. 岐阜大学の学章は鵜舟と篝火を意味する。
篝火は学問を船は人類の幸福を意味するであろう。

1. 陰陽二体の組み合わせは天地自然を意味する。
総ての存在と活動調和とバランスを意味するであろう。

1. 黒とオレンジ色の組み合わせは情熱を意味する。
また感性の豊かさと品位を意味するであろう。

1. 単純化された形は現代の清潔感と活動性を意味するであろう。
それはまた時代の速度と知性を意味するであろう。

【シンボルマーク】



デザイン 富川ヒロミ氏

- 創立 60 周年を迎えた平成 21 年，デザインを広く公募し決定した。
岐阜の地での豊かな教育研究活動が，日本全体，世界へと発信されていくこと，そして岐阜大学学生が自らの将来に矢のようにまっすぐすすむことを祈念してデザインされている。また，学章が力強い弓と融合し，岐阜大学の頭文字「G」を形作っている。

学生憲章：「岐阜大学は学生に何を期待しているか」

学生の皆さん。岐阜大学で学ぶ数年間は，皆さんの人生において最も輝いている，それ故に最も大事な時間なのです。岐阜大学における学生生活は，将来の生き方を決める上でとても重要です。自ら進んで学問の基礎と高度な専門知識を学ぶと同時に，人間，自然，社会に対する豊かな感性と洞察力を磨いてください。大学の教職員は皆さんの期待に添うよう最善を尽くします。皆さんも努力してください。

- ・本をたくさん読み，学んでいく上での土壌を作ろう。
- ・文学と芸術を愛し，人間と自然への理解を深めよう。
- ・専門職業人として，高度な専門知識を身につけよう。
- ・自分の考えを論理的な文章にまとめ，発表できるようにしよう。
- ・国際語である英語をマスターし，十分に意思疎通できる実力をつけよう。
- ・ICTの活用により，正しい情報の受信と発信ができるようにしよう。
- ・長い人生を生きるための体力をつけ，健康を守ろう。

教員憲章：「岐阜大学の教員は何をすべきか」

岐阜大学は，「教育に軸足を置いた教育・研究大学」を理念としている。学生憲章にしたがい学生を教育し，優れた人材を社会に送り出すことが大学に課せられた最大の使命である。質の高い教育には，学問に対する情熱と質の高い研究の裏付けを必要とする。教員は独創的研究を進め，世界トップレベルの研究を目指す。教員は，教育者，研究者としての高度な倫理観が求められていることを常に意識しなければならない。日常生活，教育研究に取り組む姿，それらのすべてが学生に対する教育である。

- ・教育に軸足を置いた教育・研究大学として，学生憲章に示す教育を実践する。
- ・広い視野，深い専門知識，総合的な判断力と行動力をもった人材を育成する。
- ・教育者，研究者としての倫理を常に自覚し，行動する。
- ・目標を高くもち，世界トップレベルの研究を目指す。
- ・長期的視点と広い視野で，独創的な研究を進める。
- ・それぞれの専門分野を通して，社会貢献に努める。

社会貢献憲章：「岐阜大学はどのように社会の要請と期待に応えるか」

法人化以前の大学は，『象牙の塔』という言葉に象徴されるように，社会から切り離された一段と高い存在のように思われていた。しかし，法人化後，大学はあらゆる面で社会から期待される存在になった。これを受けて，大学は積極的に社会に貢献しようと努めている。岐阜大学は，中部地域に立脚した国立の地方総合大学として，教育，研究，産業，医療，文化など，広く地域社会の要請と期待に応えられるよう努めなければならない。国際的にも，教育，研究面で貢献することが求められている。

- ・優れた人材の育成が，大学に期待されている最大の社会貢献である。
- ・地方総合大学の重要な役割は，地域社会との連携，協働である。
- ・産官学間の連携により，地域産業の振興に貢献する。
- ・地域住民，行政機関との協力により，地域の行政，経済，教育，文化の発展に貢献する。
- ・附属病院は高度先進医療センターとして地域の医療に貢献する。
- ・先進国，途上国と協力して国際的な社会問題の解決に貢献する。
- ・海外の大学との連携および留学生教育を通して，国際社会に貢献する。

大学運営憲章：「期待に応える大学であるために何をすべきか」

教育，研究，社会貢献など大学に対する社会からの期待は大きい。中期目標，中期計画を策定し，それを確実に実行することが，社会の期待に応えるための基本となる。大学という，普通の社会一般の組織とは少なからず異なる独自の組織形態と価値観をもつ組織を，本来の目的に向かって進めるためには，学長のリーダーシップのもとに，役員と教職員が問題意識を共有し，大学運営に当たることが重要である。特に，戦略性を重視し，個性ある大学像を築くことが必須条件である。国立大学法人をめぐる厳しい財政状況下で，大学の活性を保ち，本来の任務である教育，研究，社会貢献を進めるためには，経営と管理運営に戦略性が必要である。

- ・中期目標，中期計画を確実に実行する。
- ・戦略性を重視し，明確な方針と学長のリーダーシップのもとに大学運営にあたる。
- ・環境に配慮した運営を行い，教育，研究，社会貢献に反映させる。
- ・厳しい財政状況を乗り越えるため，明確な経営戦略のもとに運営する。
- ・外部資金の獲得に努め，財政基盤を強化する。
- ・情報の透明性と公開性を重視するとともに，情報を適正に取り扱い，効率的かつ合理的な運営に活かす。
- ・教職員に優れた人材を採用し，その育成に努める。
- ・学生の教学データ，教員の教育研究活動実績等は大学の財産であり，教育の質向上，研究の推進等に活用する。

岐阜大学の教育における3つの方針 Policy of Gifu University

岐阜大学の教育における3つの方針（学部）

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	岐阜大学は、東西文化が接する日本の中央に位置し、この地が培ってきた多様な文化と技術の創造と伝承を基盤とし、地域に根ざし世界へ発信する「学び、究め、貢献する」国立大学として、学術・文化の向上と豊かで健全な社会の発展に貢献する人材を社会に送り出すことを理念・目標に掲げ、以下の基盤的能力及び専門的能力を総合的に備えている人に学士の学位を授与します。 ●豊かな人間性を支える基盤的能力 － 考える力（総合的判断力） － 伝える力（コミュニケーション力） － 進める力（自立的行動力） ●専門職業人として必要な専門的能力 － 社会に貢献できる高度な専門的知識・技能 － 深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方 － 広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	岐阜大学は、基盤的能力及び専門的能力を備えた専門職業人を育成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し、実施します。 ●豊かな人間性を支える基盤的能力を培う ●学習成果を適切に評価し、自主的な学習に責任をもって取り組む態度を培う ●社会的責任を果たすことができる倫理観を培う ●人文科学、社会科学、自然科学、健康科学にわたる教養教育を実施し、生涯学習の基礎を培う ●到達目標を明確にした体系的な教育課程を編成し、専門職業人に必要な知識・技能を培う ●専門分野を生かした見方・考え方を培う
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	岐阜大学が掲げる教育理念や教育目標を達成することができる能力として、以下の素養をもつ人を受け入れます。 ●大学での学修に必要な基礎学力としての知識・技能を有している人 ●知的好奇心にあふれ、自主的な勉学姿勢を有している人 ●多面的で論理的な考え方ができる人 ●自らの経験をもとに積極的に課題を探索する意欲がある人

岐阜大学の教育における3つの方針（大学院）

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	岐阜大学大学院は、東西文化が接する日本の中央に位置し、この地が培ってきた多様な文化と技術の創造と伝承を基盤とし、地域に根ざし世界へ発信する「学び、究め、貢献する」国立大学として、学術・文化の向上と豊かで健全な社会の発展に貢献する人材を高度な専門職業人として社会に送り出すことを理念・目標に掲げ、以下の基盤的能力及びさらに高度な専門的能力を総合的に備えている人に学位を授与します。 ●高度な専門職業人としての基盤的能力 － 考える力（総合的判断力） － 伝える力（コミュニケーション力） － 進める力（自立的行動力） ●高度な専門的能力 － 社会に貢献できるより高度な専門的知識・技能 － より深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方 － より広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	岐阜大学大学院は、基盤的能力及び専門的能力を備えた高度な専門職業人を養成するため、以下の方針に基づき研究科の教育課程を編成し、実施します。 ●社会に貢献できる高度な専門的知識・技能を培う ●深い見識と専門分野に立脚した見方・考え方を培う ●広い教養と高い倫理観に基づく社会的責任感を培う
入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)	岐阜大学大学院が掲げる教育理念や教育目標を達成するために必要な以下の素養を備えている人を受け入れます。 ●大学院での学修及び研究に必要な基礎的専門知識・技能を備えている人 ●総合的かつ論理的にものごとを考えることができる人 ●知的好奇心にあふれ、自主的な研究を行う意欲を有している人 ●広い教養と高い倫理観をもち、研究における社会的責任を認識している人

環境への取り組み Approach on environment

本学は、岐阜大学環境方針に基づき、
環境に配慮した特色ある諸活動を継続的に展開し、
地域社会に貢献し、地域とともにありつづける大学として
平成 21 年 11 月 27 日に「環境ユニバーシティ」を宣言しました。

【岐阜大学環境方針】

岐阜大学は、本学が掲げる理念を達成するとともに、「環境ユニバーシティ」としての取り組みを継続発展させ、
環境に配慮した大学環境を創り出すとともに環境を担う優れた人材育成に努めます。

【基本方針】

1. 岐阜大学の特長を生かした環境教育・研究を推進します。
2. 教育・研究活動の環境側面を常に認識し、環境影響を評価し、環境汚染の予防に努めます。
3. 省エネルギー、省資源を推進し環境負荷の一層の軽減に努めます。
4. 教育・研究に関わる順守義務の適合に努めます。
5. 環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
6. 教育・研究を通して、気候変動の緩和及び生物多様性の保護に寄与します。
7. 毎年度活動目標を設定し、達成していきます。

岐阜大学は、この環境方針を学内外に周知し、広く公開します。

岐阜大学は、全学で ISO14001 を認証取得しました。（附属病院を除く）

本学は、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 を、平成 15 年に地域科学部で認証
を取得してから、順次、その認証範囲を拡大してきました。
平成 25 年には附属病院を除く全学で認証取得しました。



環境報告書を発行しています。

岐阜大学の環境負荷の状況や環境配慮の取り組みを
公表することを目的に、毎年 9 月に作成しています。



岐阜大学環境月間（毎年 11 月）

「環境ユニバーシティ」宣言日(平成 21 年 11 月 27 日)に因んで、毎年 11 月を岐阜大学環境月間と定め、さまざまな関連行事を行っています。



学生・教職員による
クリーンキャンパス



環境ユニバーシティフォーラム



学生による
ISO14001 の内部監査



学生による
図書館前花壇の緑化活動

運営組織

Organization



教育研究組織

Academic Organization

学部			
教育学部 2課程 12講座	学校教育教員養成課程	講座	国語教育, 社会科教育, 数学教育, 理科教育, 音楽教育, 美術教育, 保健体育, 技術教育, 家政教育, 英語教育, 学校教育, 特別支援教育
	特別支援学校教員養成課程		
地域科学部 2学科 4講座		附属施設	附属特別支援教育センター
			附属小学校
			附属中学校
地域科学部 2学科 4講座	地域政策学科	講座	地域政策, 地域環境
	地域文化学科		地域文化, 地域構造
医学部 2学科	医学科	学科目	人体構造学, 神経構造機能学, 分子医学, 生体機能学, 病原体学, 薬理・中毒学, 病理学, 地域・産業保健学, 循環器・呼吸器・腎尿路学, 消化器・検査医学・血液腫瘍学, 内分泌代謝学, 神経・精神・行動学, 成育学, 生命倫理・法医学, 臨床遺伝・臨床倫理, 皮膚科学, 免疫応答学, 感覚器医学, 運動器学, 麻酔疼痛制御・救急災害, 画像診断・放射線治療
	看護学科	講座	基礎看護学, 母子看護学, 成人・老年看護学, 地域・精神看護学
		附属施設	附属病院 附属地域医療医学センター
工学部 4学科 9コース	社会基盤工学科	コース	環境, 防災
	機械工学科		機械, 知能機械
	化学・生命工学科		物質化学, 生命化学
	電気電子・情報工学科		電気電子, 情報, 応用物理
		附属施設	附属インフラマネジメント技術研究センター ものづくり技術教育支援センター
応用生物科学部 2課程 1学科	応用生命科学課程	コース	分子生命科学, 食品生命科学
	生産環境科学課程		応用植物科学, 応用動物科学, 環境生態科学
	共同獣医学科		
		附属施設	附属岐阜フィールド科学教育研究センター
			附属動物病院
			附属野生動物管理学研究センター 《寄附研究部門：鳥獣対策研究部門（岐阜県）》 附属比較がんセンター 附属共同獣医学教育開発推進センター 附属家畜衛生地域連携教育研究センター



教育学部



地域科学部



医学部 / 同附属病院



工学部 / 応用生物科学部

大学院

教育学研究科	専門職学位課程	教職実践開発専攻	コース	学校改善、授業開発、教育臨床実践、特別支援教育				
	修士課程	心理発達支援専攻 総合教科教育専攻	コース	臨床心理学、学校心理学、特別支援教育 言語社会、サイエンス、芸術身体表現、カリキュラム開発				
地域科学研究科	修士課程	地域政策専攻 地域文化専攻	領域	経済社会、行政社会、自然環境 社会生活、人間文化				
医学系研究科	博士課程	医科学専攻	講座	分子・構造学	分野	細胞情報学、薬理病態学、寄生虫学・感染学、遺伝発生学、内分泌代謝病態学、小児病態学、病態情報解析医学		
				病態制御学		解剖学、分子病態学、循環病態学、呼吸病態学、高度先進外科科学、整形外科学、皮膚病態学、泌尿器科学、麻酔・疼痛制御学、口腔病態学		
				神経統御学		高次神経形態学、生理学、神経内科・老年学、精神病理学、脳神経外科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、脳病態解析学		
				腫瘍制御学		腫瘍病理学、形態機能病理学、腫瘍外科学、消化器病態学、血液病態学、産科婦人科学、放射線医学、疫学・予防医学、臨床腫瘍学		
				医療管理学		医療情報学、総合病態内科学、臨床薬剤学、医療経済学、救急・災害医学、法医学、産業衛生学、医学教育学		
	博土課程 前期専攻	再生医科学専攻	講座	再生分子統御学	分野	組織・器官形成、神経生物、病原体制御学		
				再生工学		生命機能分子設計、知能イメージ情報		
				再生応用学		循環呼吸制御学、医学系倫理・社会医学		
	修士課程	看護学専攻	領域	看護学教育	分野	継続看護学教育	専門分野	看護学教育、生体システム学
				実践看護学		母子看護学		母性看護学、小児看護学
	成人看護学	急性期看護学、慢性期看護学						
			地域健康援助学	地域看護学、精神看護学、老年看護学				
		寄附講座	循環呼吸先端医学講座（岐阜県厚生農業協同組合連合会）、地域腫瘍学講座（岐阜県厚生農業協同組合連合会）、がん先端医療開発学講座（株式会社ヤクルト本社）、地域医療運動器医学講座（関ヶ原町）、肝胆膵・がん集学的治療学講座（岐阜県厚生農業協同組合連合会）、関節再建外科学先端医療講座（京セラメディカル株式会社、バイオメット・ジャパン株式会社）、障がい児者医療学講座（岐阜県）、慢性腎臓病（CKD）医療連携講座（岐阜県）					
工学研究科	博士前期課程	社会基盤工学専攻	講座	地図マネジメント工学、構造設計学、環境保全学、都市デザイン				
		機械システム工学専攻		設計力学、創造システム工学、流体システム工学、熱エネルギー工学				
		応用化学専攻		分子設計工学、物質変換工学、物質機能工学				
		電気電子工学専攻		固体電子工学、電気エネルギー工学、情報システム工学				
		生命工学専攻		生体物質工学、生体反応工学、応用分子生物学、生命情報工学				
		応用情報学専攻		情報基礎、情報環境、知識情報、メディア情報				
		機能材料工学専攻		材料創成工学、材料物性工学、材料プロセス工学				
		人間情報システム工学専攻		人間支援システム工学、知能制御システム工学、機械情報工学、エネルギー制御工学				
	数理デザイン工学専攻	計算数理、マテリアルデザイン、システムデザイン						
	博士後期課程	環境エネルギーシステム専攻	講座	環境システム、再生可能エネルギーシステム、環境基礎科学、グローバル環境・エネルギー、新機能エネルギー材料学				
生産開発システム工学専攻		社会基盤工学、生産基礎工学						
物質工学専攻		応用材料化学、応用分子化学						
電子情報システム工学専攻		電子物性工学、知識情報工学						
		環境エネルギーシステム専攻	環境システム、再生可能エネルギーシステム、環境基礎科学、グローバル環境・エネルギー、新機能エネルギー材料学					
応用生物科学研究科	修士課程	応用生命科学専攻 生産環境科学専攻	コース	分子生命科学、食品生命科学 応用植物科学、応用動物科学、フィールド生態学、生態環境管理学				
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻 生物環境科学専攻 生物資源科学専攻	連合講座	植物生産管理学、動物生産利用学 環境整備学、生物環境管理学 生物資源利用学、スマートマテリアル科学、生物機能制御学				
連合獣医学研究科	博士課程	獣医学専攻	連合講座	基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学				
連合創薬医療情報研究科	博士課程	創薬科学専攻 医療情報学専攻	研究領域	生命分子科学、システム生命工学 生命情報、生体制御				

図書館

平成 28 年 4 月 1 日現在						
蔵書数						
区分	図書（冊）			雑誌（種）		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
図書館	523,250	217,829	741,079	9,774	3,916	13,690
医学図書館	78,453	85,655	164,108	1,485	1,790	3,275

Elsevier や Springer 等の電子ジャーナル約 7,300 タイトル、ネットライブラリー等の電子ブック約 7,300 タイトル、Scopus や SciFinderScholar 等のデータベースを導入している。



受付カウンター 入館ゲート

開館時間・休館日						
区分	月～金曜日	土曜日	日、祝日（試験期間のみ）	休館日		
図書館	9：00～21：30	10：00～18：00	10：00～18：00	日曜日、祝日＊1） 夏季一斉休業日（8.12.15～16） 年末年始（12.28～1.4）	館内整理日（第2火曜日）＊2）	学休期間の一部土曜日
医学図書館	8：30～20：00	10：00～18：00		日曜日、祝日	夏季一斉休業日（8.12.15～16） 年末年始（12.28～1.4）	館内整理日（第2火曜日）

備考 各季休業中及び3月は閉館時間を変更する場合がある。 ＊1）試験期間を除く。 ＊2）7月、10月、1月及び2月を除く。

利用状況（平成 27 年度）						
区 分			教職員	学 生	学外者	計
入館者数(人)	図 書 館	蔵書スペース他	5,013	150,058	3,757	183,487
		ラーニング・コモンズ＊1)	24,659			
	医学図書館		6,084	34,731	4,760	45,575
	計					229,062
貸出冊数(冊)	図 書 館		3,596	34,948	759	39,303
	医学図書館		1,464	8,563	58	10,085
	計		5,060	43,511	817	49,388
文献複写数(件)	図 書 館		5,180	1,014		6,194
	医学図書館		2,910	1,810		4,720
	計		8,090	2,824		10,914

備考 開館日数 図書館：278 日、医学図書館：277 日
＊1）グループ学習スペースや BBC 放送・各種新聞等が利用可能な学習支援の場



本館

コレクション	
コレクション名	摘要
静嘉堂文庫所蔵国語学資料集成	国語学関係の写本・版本・活字本（明治時代）472 点、769 冊のマイクロフィルム版
静嘉堂文庫所蔵歌学資料集成	和歌および連歌俳諧などの古典籍資料 1,333 点、3,192 冊のマイクロフィルム版
大東急記念文庫所蔵江戸文学総鑑	江戸文学 878 点、1,530 冊の原本のマイクロフィルム版
大東急記念文庫所蔵古写古版物語文学総鑑	古物語、説話物語、歴史物語などの物語文学 95 点、695 冊のマイクロフィルム版
環境問題研究コレクション	世界各地の環境問題研究の文献 雑誌 19 点、叢書 26 点、図書 200 冊のコレクション
明治・大正・昭和期教育関係新聞雑誌完全復刻版コレクション	明治・大正・昭和の教育関係新聞雑誌の完全復刻版コレクション
Landolt-Börnstein 数値表 第 1 群 原子核・素粒子物理学	原子核・素粒子物理学に関する数値表
ウェブスター：アメリカ英語辞書コレクション	ウェブスター辞書の 1806 年の初版本から 1943 年までに刊行された辞書の異版 100 点、108 冊の英語辞書コレクション
特別資料（貴重書）	本学の前身である岐阜師範学校、岐阜高等農林学校、県立医科大学当時に収集された江戸、明治時代の和本及び中国の漢籍を中心に約 1,500 点を特別資料庫に収蔵



ブラウジングコーナー



貴重書の一部
奈良絵本「小しきぶ」2冊

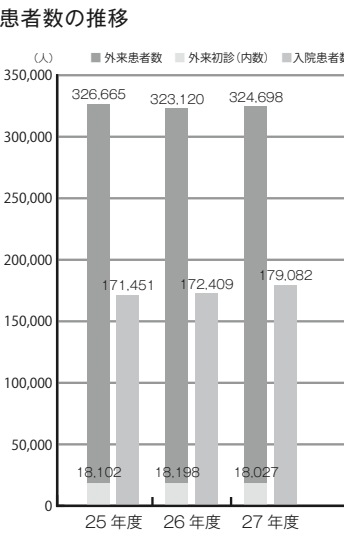
医学部附属病院

医学部附属病院は、岐阜県下唯一の大学医学部附属病院、特定機能病院として先進・高度医療を担い、がん・心筋梗塞・脳卒中・糖尿病・精神疾患の5疾患及び救急医療・災害医療・へき地医療・周産期医療・小児医療の5事業に積極的に取り組んでおり、難病疾患やがん、肝炎、AIDSの診療拠点病院にも指定されている。

また、国から高度救命救急センターに指定されており、院内の「高次救命治療センター」において、第三次救急患者の受け入れ、平成23年2月からは、岐阜県ドクターヘリ事業の基地病院として活躍している。（平成27年度出勤実績390件）

さらに平成27年9月からは術前管理センターを設置し、医療の質をより一層高めていくと同時に、医療の安全を確保し、一人ひとりの患者さんに対して最善の医療を提供できるよう、チーム医療の実践と医療人の育成を行っている。

患 者 数（平成27年度）		
入 院	患者延数	179,082人
	1日平均患者数	490.64人
	病床利用率	79.7%
	入院稼働日数	365日
外 来	初診患者数	18,027人
	再診患者数	306,671人
	計	324,698人
	一日平均患者数	1,325.3人
	外来診療日数	245日



平成28年4月1日現在		
診療科及び病床数		
区 分	病床数	
第1内科	61	
血液内科	57	
第2内科	22	
第3内科	12	
神経内科・老年内科	13	
総合内科	41	
第1外科	52	
第2外科	36	
産科婦人科	44	
整形外科	31	
脳神経外科	21	
眼科	31	
耳鼻咽喉科	18	
形成外科	22	
皮膚科	37	
泌尿器科	32	
精神神経科	2	
小児科	1	
放射線科	10	
麻酔科・疼痛治療科	27	
歯科口腔外科	6	
高次救命治療センター	12	
ICU	26	
新生児集中治療部	614	
共通		
計		



医学部附属病院

中央診療施設等			
検査部	高次救命治療センター	高次画像診断センター	
手術部	医療連携センター	新生児集中治療部	
放射線部	生体支援センター	オートプシー・イメージングセンター	
材料部	がんセンター	脳卒中センター	
輸血部	エイズ対策推進センター	遺伝子診療部	
病理部	肝疾患診療支援センター	ベッドコントロールセンター	
総合診療部	リハビリテーション部	術前管理センター	
医療情報部	分娩部	栄養管理室	
光学医療診療部	医療機器センター		

医療安全管理室
薬 剤 部
看 護 部
診療録管理室
医師育成推進センター
内視鏡外科手術トレーニングセンター
先端医療・臨床研究推進センター

応用生物科学部附属動物病院

応用生物科学部附属動物病院は、獣医学の教育・研究・診療を実践する中部地区で唯一の施設である。近年の診療件数の増加に対応するため、またペットオーナーの求める高度な動物医療を提供するため、平成22年4月に新病棟とリニアック棟、同24年4月にMRI棟を増築した。

新病棟は個室型の診療室、脳外科手術にも対応できる陽圧手術室、集中治療室などを備え、画像診断装置など最新の医療設備と電子カルテを導入した先進施設である。また、リニアック棟には国立大学では初めてとなる高エネルギー型放射線治療器、MRI棟にはMRI磁気共鳴断層装置を導入した。

本院の特色は、伴侶動物を診療する内科、外科、腫瘍科、麻酔科、神経科と産業動物を診療する産業動物科を設置していることである。内科、外科、腫瘍科、麻酔科、神経科には東海地区をはじめ近畿、北陸地区の個人病院から年間のべ約9000件の症例が紹介されてくる。一方、臨床繁殖科は年間のべ約150件の牛を診療するなど、岐阜地区における産業動物診療の一翼を担っている。

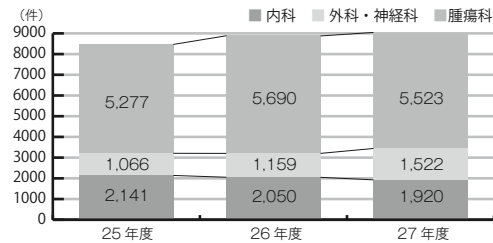


平成28年4月1日現在		
名称	床面積 (㎡)	主な施設
新病棟	911	1階：診療室（7室）、超音波検査室、処置室、第1検査室、薬室、受付事務室 2階：陽圧手術室、一般手術室（3手術台）、手術準備室、集中治療室、回復室、仮眠室（2室）
リニアック棟・MRI棟	327.55	高エネルギー型放射線治療室、磁気共鳴断層検査室、操作室
本館（1階）	438	内視鏡・腹腔鏡検査室、歯科口腔外科診療室、X線・画像解析室、第2検査室、病院長室・相談室、動物病院事務室
本館（2階）	68	遺伝子検査室、スタッフ室
CT棟	47	X線CT撮影室、操作室
動物管理棟	260	動物入院室、供血動物室、医局
合 計	2,051.55	

動物種類別の診療件数（延べ）

年度	伴侶動物（件数）				産業動物（件数）					総計
	犬	猫	その他	計	牛	馬	豚	鶏・山羊	計	
25	7,238	1,239	1	8,478	123	3	0	3	129	8,607
26	7,417	1,476	1	8,894	123	0	0	0	123	9,017
27	7,664	1,294	2	8,960	154	2	0	4	160	9,120

内科、外科・神経科、腫瘍科の診療件数（延べ）の推移



医学教育共同利用拠点

医学教育開発研究センター

医学教育に貢献できる人材育成と、国内外の医学教育機関との連携・共同研究を推進する全国共同利用施設として2001年に設立された。2010年4月には全国唯一の「医学教育共同利用拠点」として文部科学省から認定され、2015年4月からさらに5年間の拠点継続が承認された。拠点事業として毎年4回開催する「医学教育セミナーとワークショップ」は全国規模の教員養成プログラムとして高く評価されている。また、全国の医学部・医療系教育機関でリーダーとなる人材を育成するプログラムを開始し、修了者を「MEDCフェロー／アソシエイト」として認定する制度を開始した。

テュートリアル部門では少人数能動型の問題基盤型学習（PBL）の普及・改善に取り組み、バーチャルスキル部門では、模擬患者参加型のコミュニケーション教育・シミュレーション教育の開発に取り組んでいる。プロフェッショナルリズム教育、アウトカム基盤型医学教育、コンピュータ支援学習、ポートフォリオ評価システム、国際交流と医療英語教育、医学教育学の大学院教育（博士課程）にも力を入れている。

〔テュートリアル部門、バーチャルスキル部門〕



テュートリアル教育



模擬患者実習



医学教育ワークショップ



スキルスラボ実習

共同教育研究施設等

地域協学センター

地域志向を持った人材の輩出及び地域が抱える課題解決を図るため、地域と協働した活動を推進し、地域社会の活性化に貢献することを目的に、平成 25 年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」の実施支援機関として設置された。

COC 事業では、「次世代地域リーダーの育成」、「地域志向学の推進」、及び「多様な人びとが集い議論する『場』(ぎふフューチャーセンター)の形成」を取組みの 3 つの柱として、事業を推進している。また平成 27 年度には文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+ 事業)」にも採択され、地域に定着して「地域産業の活性化に貢献できる人材の育成」にも着手している。[プログラム開発部門、フューチャーセンター部門、研究プロジェクト部門、共通プログラム企画部門、連携推進部門、地域活動部門]



地域協学センター

流域圏科学研究センター

岐阜大学の環境科学研究の中核として、自然環境の仕組みの現状と将来の変化を明らかにし、自然資源の健全性の評価および環境の変化が人の営みに及ぼす影響の解析により、資源と環境の保全や管理手法を開発し、地域の安全・安心・持続可能な社会の実現に寄与する。[植生資源研究部門、水系安全研究部門、流域情報研究部門、高山試験地、流域水環境リーダー育成プログラム推進室]



流域圏科学研究センター

生命科学総合研究支援センター

ゲノム・プロテオーム解析や遺伝子組換え、ナノテクノロジー、放射性同位元素を用いた技術、大型分析機器を用い、生命科学に関連する先進的分野の教育研究を行うとともに放射性同位元素、実験動物、大型分析機器の管理など、学内の研究を推進・支援する。[ゲノム研究分野、嫌気性菌研究分野、動物実験分野、機器分析分野、放射性同位元素実験分野]《寄附研究部門：抗酸化研究部門(TIMA 医療財団)》



生命科学総合研究支援センター（ゲノム研究棟）

総合情報メディアセンター

情報ネットワークサービスの整備及び情報関連設備の学内への提供等を行うとともに、情報連携マネジメント、教育における情報メディアの活用、e-Learning システム、地域連携システム、学内情報資産の活用等の開発研究を行い、本学における教育・研究・大学運営の高度情報化の総合的な推進を図る。

[情報連携マネジメント研究部門、教育コミュニケーション研究部門、カリキュラム開発研究部門、生涯学習コミュニティ研究部門、知のアーカイブ活用研究部門]



総合情報メディアセンター A 館

留学生センター

外国人留学生の日本語・日本文化に関する教育、外国人留学生の修学・生活上の相談や指導・助言を行うほか、海外留学を希望する日本人学生に対して指導・助言等の支援を行っている。さらに、学術交流協定校とのサマースクール(受入れ及び派遣)の企画・運営、全学共通教育における日本人学生と外国人留学生を対象とした異文化交流に関する授業も実施し、留学生交流を中心に大学の国際化に寄与している。

また、留学生センターには、「交流ラウンジ」があり、ラウンジでは外国人留学生と日本人学生との交流や学習、チューターによる学習の支援、留学等の情報収集の場として多様な活動を通し、本学の留学生交流の促進を図っている。



留学生センター

保健管理センター

学生及び職員の健康増進、ならびに学生の安全衛生環境保持・改善を図るために、学内の保健計画の立案・実践について指導援助している。学生の健康診断の実施とそれに基づく生涯の健康を守るための保健指導、就学支援、救急処置、健康相談、健康啓発活動と、その業務は多彩である。

また、学生の健康に関する調査・研究を行い、学内の施策提言につなげているほか、県内の各大学と協働し、その中核として大学生の健康管理に関する研究会を主催し、地域貢献を担っている。



保健管理センター

サテライトキャンパス等

岐阜大学サテライトキャンパス【平成 24 年 10 月設置】 (岐阜市吉野町 6 丁目 31 番地 岐阜スカイウイング 37 東棟 4 階)

サテライトキャンパスは、JR 岐阜駅に直結しており、講義やゼミ、講演会、研究発表等に使用可能な多目的講義室、学生が自学自習できるラーニングcommons、企業相談等に利用できるミーティングルームを備えている。

本学学生・教職員の他、卒業生、地域の方が利用でき、本学における教育研究の推進、学生の活動、地域貢献、情報発信のための活動拠点である。



岐阜スカイウイング 37

岐阜大学旧早野邸セミナーハウス【平成25年4月設置】 (大垣市昼飯町 1777)

旧中山道沿いの大垣市昼飯町にある本学第 7 代学長早野三郎氏ゆかりの家を活用した本学の活動拠点である。

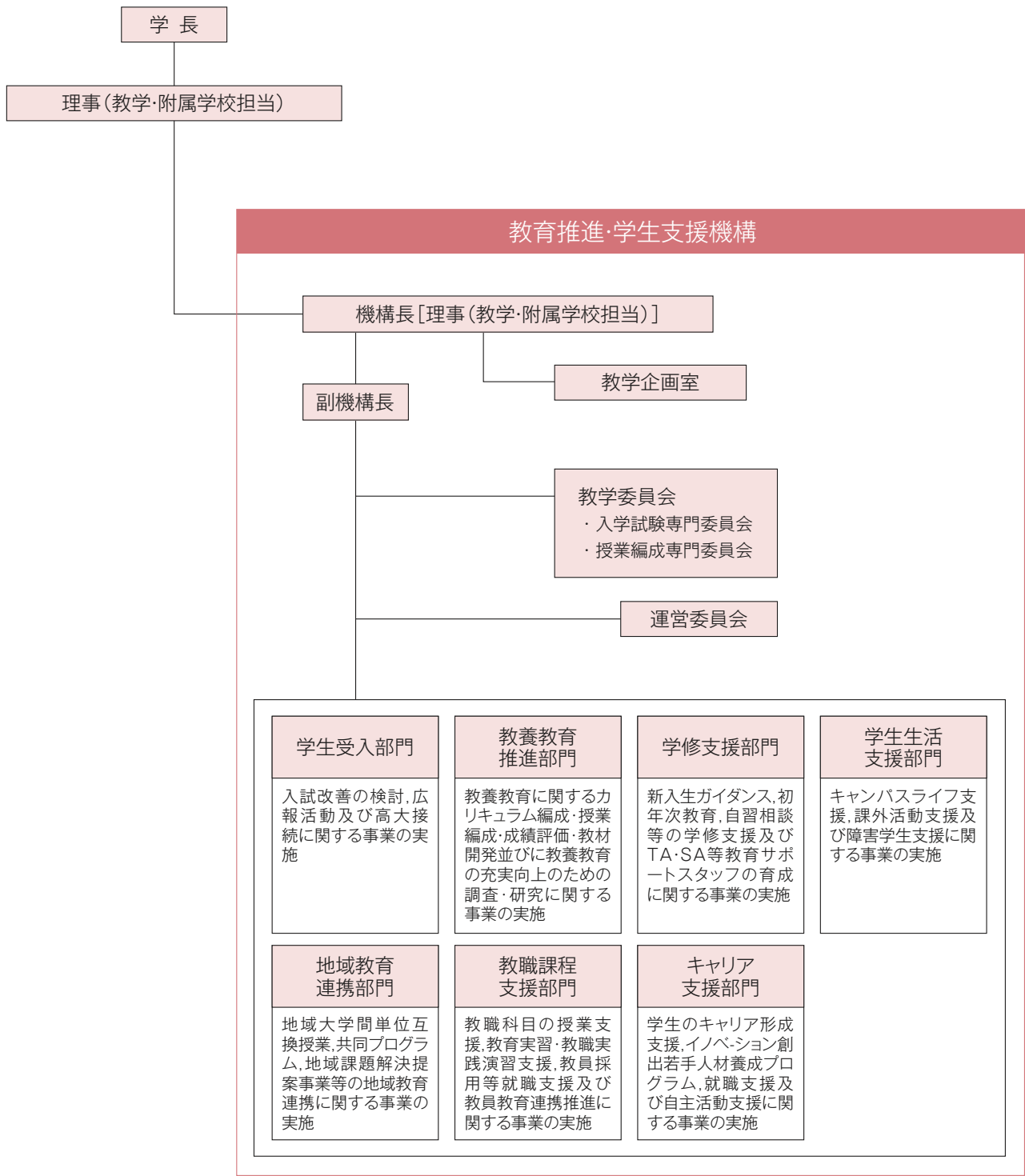
授業、講演等に使用可能なセミナー室、地域の歴史と文化に係る資料や学生の制作物等を展示する展示室、フィールドワークの活動拠点として利用できるミーティング室を備えている。



旧早野邸セミナーハウス

教育推進・学生支援機構

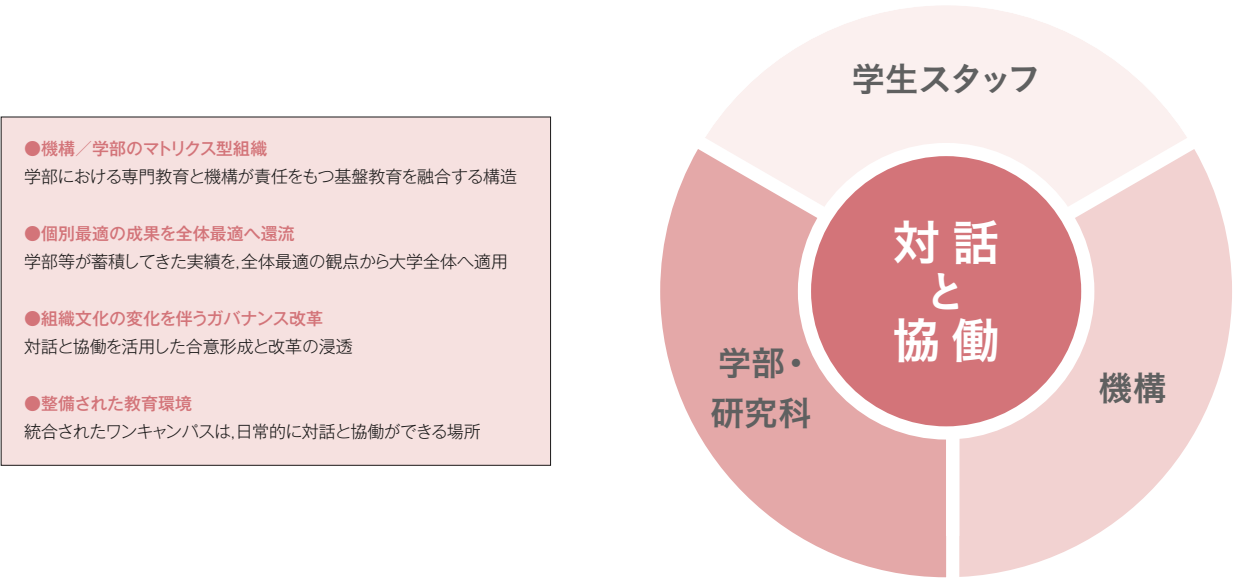
体制図



岐阜大学では、「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」,そして「入学受入の方針(アドミッション・ポリシー)」の3つの方針を大学全体として策定するとともに,大学として全教育活動を通して身につけさせたい能力として「基盤的能力」を示し,学部等の「専門的能力」と合わせて養成することを目指している。

学生の主体的な学修を促すため,①学生の入学から卒業・修了までの一貫した修学支援・学生生活支援体制を強化すること。②3つの方針に沿った学部・研究科の実践を絶えず確認し,よりよいシステムとしていくこと。そして,③各学部の潜在的な教育力を引出し,大学全体としての教育力を高めること。これらの目標を実現するためには,全学の教育活動を俯瞰しつつ,企画立案し,各学部・研究科の教育活動の改善を推進するとともに,学生自身の学びを支援するしくみが必要になる。

教育推進・学生支援機構(以下,機構)は,機構と学部・研究科,学生スタッフが相互に「対話と協働」を展開しながら,先にあげた目標を実現していくことを大きな特徴としている。学内の様々な部局からスタッフが集い,平成25年12月にスタートした。



機構には,機構長の諮問に応じて助言又は提言を行うとともに,教育効果の評価分析及び全学FDの企画運営にあたる組織として「教学企画室」が置かれている。

また,企画立案および計画実施のため,7部門(学生受入部門,教養教育推進部門,学修支援部門,学生生活支援部門,地域教育連携部門,教職課程支援部門,キャリア支援部門)の業務実施組織が置かれている。

本機構の主な業務は,次のとおり。

- ① 全学的教育の推進及び改善に関すること。
- ② 教養教育の企画及び実施に関すること。
- ③ 学生の受け入れ,学修支援,学生生活支援,キャリア支援等の企画及び実施に関すること。
- ④ 地域教育連携の企画及び実施に関すること。
- ⑤ 教職課程支援及び教員教育連携の推進に関すること。
- ⑥ 教育効果の評価及び分析に関すること。
- ⑦ その他教育機構の目的を達成するために必要なこと。

特色ある教育改革の取り組み

文部科学省は、大学改革の取組が一層推進されるよう、競争的環境の下で、各大学の特色・個性ある優れた取組を選定、支援している。
岐阜大学は、各種プログラムに積極的に応募し、採択されている。

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

年 度	プログラム名	事業協働機関
平成 27 ～ 31 年度	岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成	岐阜大学、中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜県、 (一社)岐阜県経営者協会、(株)十六銀行、(株)大垣共立銀行、(株)マイナビ
本事業は、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としている。 岐阜大学は地域にとけこむ大学を目指して、現行 COC 事業では、自らの専門性を生かして地域の課題解決に取り組み、地域のリーダーとして活躍できる地域志向人材の育成を進めている。一方、岐阜県の人口は流出超過で特に 20 歳代で職業上の理由から愛知県に転出するケースが最も多く、県内企業の魅力を理解し、地域に定着して地域産業の活性化に貢献できる人材の育成が求められている。 そこで、岐阜をフィールドに自治体や企業等と協働し産業界との関わりを強化して、岐阜大学がインターンシップを核とした３ステップ(①聞く・見る②挑戦する③活躍する)の教育プログラムを実施し、岐阜県内の大学に加えて愛知県の現行 COC 事業採択大学とも連携した共通の教育プログラムとすることで産業界ニーズにより適した人材を育成すること、及び産官学共同研究を通した事業拡大等による雇用創出を促進することで、地元就職とＵターン就職を推進し、地方創生に貢献する。		

地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)

年 度	プログラム名	拠点／実施部局等
平成 25 ～ 29 年度	ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学	岐阜大学、岐阜県、岐阜市、高山市、郡上市
本事業は、大学が地域を志向した教育・研究・地域貢献を進めることで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としている。岐阜の豊かな自然環境と地理的特徴は、多様な風土や自然の恵みを与えてくれる一方で、その多様さゆえに地域課題は広範にわたり様々な形で現れている。このような多様な地域課題に対し、本学は、岐阜県、岐阜市、郡上市、高山市をはじめとする県内自治体とともに、次の３つを軸に地域課題解決に向けて取り組む。 1) 地域にとけこみ活躍する人材（地域志向人材）の育成 2) 自治体や地域住民、大学などが地域課題について対話する「場」の形成 3) 地域を志向した学術的な研究領域の形成と展開（「地域志向学」） 本事業において、岐阜大学は学部や分野の垣根を取り払い、『地域協学センター』を中心として全学総力をあげ、“ともに つくる 清流の国”の実現を目指す。		

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

年 度	プログラム名	拠点／実施部局等
平成 24 ～ 28 年度	組織横断的がん診療を担う専門医療人の養成	名古屋大学、岐阜大学、他東海地区 5 大学
本事業では、名古屋大学を主幹とする東海地域の大学がそれぞれの特色を生かして相互に教育を活性化しながら、臓器横断的ながん診療・がん研究を担う人材の養成を発展させるとともに、放射線治療と緩和ケアの専門医療人の養成にも力を入れる。本事業によって養成されるがん専門医療人が、各臓器を専門とする診療科や他職種との組織横断的なチーム医療のなかでその専門性を十分に発揮することにより、高度ながん医療とがん研究を実践できる新しい診療体制及び教育の拠点を東海地域に創生、整備する。		

学生数

学部学生

学 部		入 学 定 員	編入学	現 員						
				1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計
教育学部		250		253 (154) 1 (1)	257 (149)	258 (145)	277 (154)			1,045 (602) 1 (1)
地域科学部		100	10	110 (65) 2 (2)	107 (65) 2 (0)	122 (75) 2 (1)	139 (80) 2 (1)			478 (285) 8 (4)
医 学 部	医学科	110		121 (38)	107 (34)	110 (25)	110 (28)	106 (27)	94 (19)	648 (171) 2 (0)
	看護学科	80	10	82 (79)	79 (77)	80 (74)	79 (74)			320 (304) 0 (0)
工 学 部		510	30	553 (91) 7 (4)	532 (94) 6 (2)	607 (92) 8 (2)	629 (76) 11 (3)			2,321 (353) 32 (11)
応用生物科学部	応用生命科学課程 生産環境科学課程	160	10	170 (90) 2 (1)	179 (105)	177 (101)	175 (88)			701 (384) 4 (2)
	共同獣医学科*1	30		32 (21)	33 (17)	33 (16)	33 (20)	33 (19)	30 (12)	194 (105) 0 (0)
学部学生 合計		1,240	60	1,321 (538) 12 (8)	1,294 (541) 8 (2)	1,387 (528) 13 (4)	1,442 (520) 14 (4)	139 (46)	124 (31)	5,707 (2,204) 47 (18)

現員には外国人留学生を含み、() 内は女子を、下段は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。
*1 共同獣医学科の現員には、名称変更前の獣医学課程の在籍者を含む。

大学院生

専門職学位課程（教職大学院課程）

研 究 科	課 程	入 学 定 員	現 員			学 位 名
			1 年次	2 年次	計	
教育学研究科	専門職学位課程	20	17 (4) 1 (1)	20 (7)	37 (11) 1 (1)	教職修士(専門職)

修士課程、博士前期課程

研 究 科	課 程	入 学 定 員	現 員			学 位 名
			1 年次	2 年次	計	
教育学研究科	修士課程	49	57 (19) 0 (0)	60 (30) 3 (0)	117 (49) 3 (0)	修士(教育学)
地域科学研究科	修士課程	20	18 (10) 9 (6)	27 (14) 8 (5)	45 (24) 17 (11)	修士(地域科学)
医学系研究科	修士課程	8	4 (3)	13 (12)	17 (15) 0 (0)	修士(看護学)
	博士前期課程	11	9 (1)	11 (1)	20 (2) 0 (0)	修士(再生医科学)
工学研究科	博士前期課程	275	317 (30) 21 (11)	328 (34) 21 (6)	645 (64) 42 (17)	修士(工学)
応用生物科学研究科	修士課程	89	103 (51) 16 (8)	103 (43) 19 (10)	206 (94) 35 (18)	修士(応用生物科学)

博士課程、博士後期課程

研 究 科	課 程	入 学 定 員	現 員					学 位 名
			1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	計	
医学系研究科*1	博士課程	47	37 (13) 0 (0)	32 (9) 2 (0)	34 (9) 1 (1)	77 (15) 2 (2)	180 (46) 5 (3)	博士（医学）
	博士後期課程	6	2 (2) 1 (1)	3 (2) 2 (1)	7 (2) 2 (0)		12 (6) 5 (2)	博士（再生医科学）
工学研究科	博士後期課程	27	15 (5) 9 (4)	21 (7) 11 (5)	34 (5) 10 (2)		70 (17) 30 (11)	博士（工学）
連合農学研究科	博士課程*2	20	28 (10) 16 (8)	18 (7) 11 (5)	46 (22) 16 (11)		92 (39) 43 (24)	博士（農学）
連合獣医学研究科	博士課程	20	23 (9) 10 (5)	38 (11) 14 (6)	23 (3) 7 (2)	38 (13) 9 (2)	122 (36) 40 (15)	博士（獣医学）
連合創薬医療情報研究科	博士課程*2	6	8 (2) 0 (0)	5 (0) 0 (0)	13 (3) 2 (1)		26 (5) 2 (1)	博士（工学又は 医科学又は薬科学）

大学院生 合計	598			1,589 (408) 223 (103)	
---------	-----	--	--	--------------------------	--

現員には外国人留学生を含み、() 内は女子を、下段は外国人留学生をそれぞれ内数で示す。
*1 医学系研究科の現員には、改組前の医学研究科の在籍者を含む。
*2 連合農学研究科及び連合創薬医療情報研究科は、後期 3 年のみの博士課程。

配置大学別学生数

平成 28 年 5 月 1 日現在 (人)

研 究 科	現 員					計
	配置大学	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
連合農学研究科	静岡大学	4 (2)	2 (2)	15 (4)		21 (8)
	岐阜大学	24 (8)	16 (5)	31 (18)		71 (31)
連合獣医学研究科	帯広畜産大学	5 (3)	6 (1)	1 (0)	6 (2)	18 (6)
	岩手大学	1 (0)	4 (0)	5 (0)	5 (2)	15 (2)
	東京農工大学	11 (3)	17 (7)	9 (3)	11 (5)	48 (18)
	岐阜大学	6 (3)	11 (3)	8 (0)	16 (4)	41 (10)

現員には外国人留学生を含み、()内は女子を内数で示す。

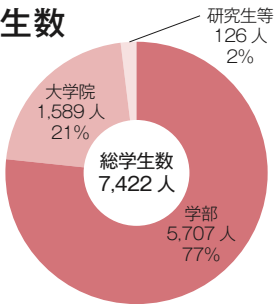
研究生・科目等履修生・聴講生等

平成 28 年 5 月 1 日現在 (人)

部 局 等	研 究 生	特別研究学生	科目等履修生	聴 講 生	特別聴講学生	現職教育 内地留学生	日本語・ 日本文化 研修留学生	計
教 育 学 部	2 (2)			1	4 (4)			7 (6)
地域科学部	18 (18)			3	1 (1)			22 (19)
医 学 部	14 (1)			2				16 (1)
工 学 部	4 (4)				4 (4)			8 (8)
応用生物科学部	4 (3)		1					5 (3)
教育学研究科	1 (1)							1 (1)
地域科学研究科		1 (1)						1 (1)
医学系研究科	2	6						8
工学研究科	3 (2)	3	1					7 (2)
応用生物科学研究科			1 (1)					1 (1)
連合創薬医療情報研究科		2						2
教育推進・学生支援機構				1				1
流域圏科学研究センター	1 (1)							1 (1)
留学生センター					6 (6)		10 (10)	16 (16)
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜*					30			30
合 計	49 (32)	12 (1)	3 (1)	7	45 (15)		10 (10)	126 (59)

*ネットワーク大学コンソーシアム岐阜とは、岐阜県と県内 22 大学等からなる大学連合。学生は、単位互換制度のもとに他大学の授業を受講し、単位を修得すれば自校の単位として認定される。()内は外国人留学生を内数で示す。

総学生数



附属学校

平成 28 年 5 月 1 日現在 (人)

学 校 名	学 級 別	学 級	入 学 定 員	現 員
教育学部附属小学校	通常学級	18	105	644
	特別支援学級	3	4	18
教育学部附属中学校	通常学級	12	160	475
	特別支援学級	3	8	24
合 計				1,161

入学状況

平成 28 年 4 月 1 日現在 (人)

学部

平成 28 年度 (人)

学 部		1 年次入学				3 年次編入学			
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	受験者数
教 育 学 部		250	1,678	1,182	280	253	-	-	-
地域科学部		100	518	370	118	110	10	37	33
医 学 部	医学科	110	1,414	565	114	110	-	-	-
	看護学科	80	359	276	84	80	10	4	3
工 学 部		510	2,439	1,682	600	538	30	130	126
応用生物科学部	応用生命科学課程 生産環境科学課程	160	536	388	184	170	10	44	42
	共同獣医学科	30	158	149	32	32	-	-	-
合 計		1,240	7,102	4,612	1,412	1,293	60	215	204

※医学科の受験者数は、第 1 段階選抜（一般入試・後期日程において実施）で不合格となった者を含まない。
※外国人留学生を含む人数

大学院

平成 28 年度 (人)

大 学 院		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学研究科	専門職学位課程（教職大学院課程）	20	25	24	22	17
	修士課程	49	84	79	59	57
地域科学研究科	修士課程	20	29	29	21	18
医学系研究科	再生医科学専攻（博士前期課程）	11	10	10	10	9
	看護学専攻（修士課程）	8	5	5	4	4
	医科学専攻（博士課程）	47	39	39	39	37
	再生医科学専攻（博士後期課程）	6	2	2	2	2
工学研究科	博士前期課程	275	368	348	326	315
	博士後期課程	27	10	10	10	10
応用生物科学研究科	修士課程	89	116	116	103	98
連合農学研究科	博士課程	20	26	26	26	21
連合獣医学研究科	博士課程	20	19	18	16	16
連合創薬医療情報研究科	博士課程	6	6	6	6	6
合 計		598	739	712	644	610

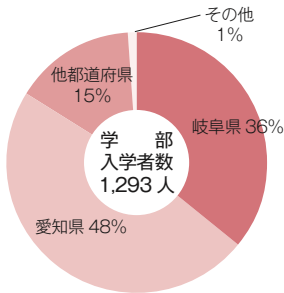
※医学系研究科医科学専攻に 2 名、連合農学研究科に 4 名 10 月入学予定者あり（外数）
※外国人留学生を含む人数

出身高校等の所在地別入学状況（学部・3 年次編入学除く）

平成 28 年度 (人)

学 部	岐 阜 県	愛 知 県	滋 賀 県	三 重 県	静 岡 県	大 阪 府	京 都 府	兵 庫 県	他 都 道 府 県	* 其 他	計
教 育 学 部	130	86	5	3	7	0	2	2	17	1	253
地域科学部	57	47	1	1	0	0	0	0	0	4	110
医 学 部	90	60	0	4	1	6	7	2	20	0	190
工 学 部	144	339	12	8	4	4	0	3	17	7	538
応用生物科学部	44	96	4	5	8	9	4	4	26	2	202
合 計	465	628	22	21	20	19	13	11	80	14	1,293

※その他には高等学校卒業程度認定試験、外国の学校等を含む。
※外国人留学生を含む人数

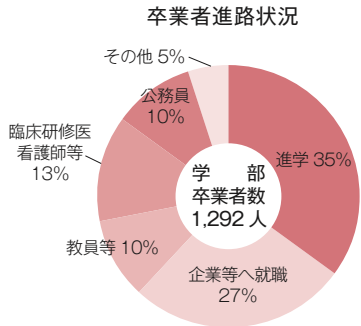


学部卒業生数・進路状況

学部卒業生数

学 部 名		平成 27 年度	累 計
教育学部		251	17,708
地域科学部		113	1,807
医学部		187	4,854
工学部	昼間コース	537	22,632
	夜間主コース	0	847
応用生物科学部		204	12,750 *
計		1,292	60,598

*農学部の新卒生を含む。



平成27年度卒業生進路状況

進路状況

区 分	学部名	教育学部	地域科学部	医 学 部		工 学 部	応用生物科学部	計
				医 学 科	看護学科			
卒 業 者 数		251 (134)	113 (68)	110 (26)	77 (77)	537 (63)	204 (118)	1,292 (486)
進 学 者 数		49 (16)	5 (2)			313 (19)	84 (39)	451 (76)
就 職 者 数		194 (114)	102 (64)		74 (74)	201 (43)	111 (74)	682 (369)
社会人学生（現職にとどまる者）								0 (0)
臨床研修医				101 (26)				101 (26)
そ の 他		8 (4)	6 (2)	9 (0)	3 (3)	23 (1)	9 (5)	58 (15)
計		251 (134)	113 (68)	110 (26)	77 (77)	537 (63)	204 (118)	1,292 (486)

産業別状況

学部名 産業分類	教育学部	地域科学部	医 学 部		工 学 部	応用生物 科学部	計
			医 学 科	看護学科			
農業、林業、漁業						12 (7)	12 (7)
鉱業、採石業、砂利採取業							0 (0)
建設業	1	1			5	2 (1)	9 (1)
製造業	3 (2)	10 (6)			100 (19)	29 (23)	142 (50)
電気・ガス・熱供給・水道業					5 (1)	1 (1)	6 (2)
情報通信業	6 (5)	6 (3)			18 (9)	1 (1)	31 (18)
運輸業、郵便業	1 (1)				6 (1)	1 (1)	8 (3)
卸売業、小売業	7 (3)	10 (9)			3 (1)	2 (2)	22 (15)
金融業、保険業	7 (1)	16 (12)			1 (1)	3 (2)	27 (16)
不動産取引・賃貸・管理業		1 (1)			2 (1)	1	4 (2)
学術研究、専門・技術サービス業	4 (2)	2			15 (2)	19 (16)	40 (20)
宿泊業、飲食サービス業		1 (1)					1 (1)
生活関連サービス業、娯楽業		1 (1)			3	2 (1)	6 (2)
学校教育	133 (77)			2 (2)		3 (2)	138 (81)
その他の教育、学習支援業	3 (3)				1		4 (3)
医療業、保健衛生	2 (1)	4 (2)		72 (72)	1 (1)	1	80 (76)
社会保険・社会福祉・介護事業	1 (1)	2 (2)					3 (3)
複合サービス事業	1	5 (3)			2 (1)	1 (1)	9 (5)
宗教、その他のサービス業	3 (3)	2 (1)			5 (2)	1	11 (6)
国家公務	2 (1)	8 (2)			4 (1)	2 (1)	16 (5)
地方公務	20 (14)	33 (21)			26 (3)	30 (15)	109 (53)
その他					4		4 (0)
計	194 (114)	102 (64)	0 (0)	74 (74)	201 (43)	111 (74)	682 (369)

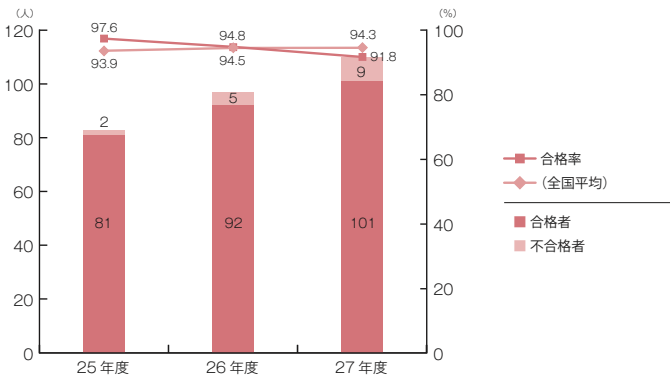
() 内は女子を内数で示す。

国家試験合格状況・教員採用状況

医師国家試験合格状況

	25 年度	26 年度	27 年度
受験者数	83	97	110
合格者数	81	92	101
不合格者数	2	5	9
合格率	97.6%	94.8%	91.8%
(全国平均)	93.9%	94.5%	94.3%

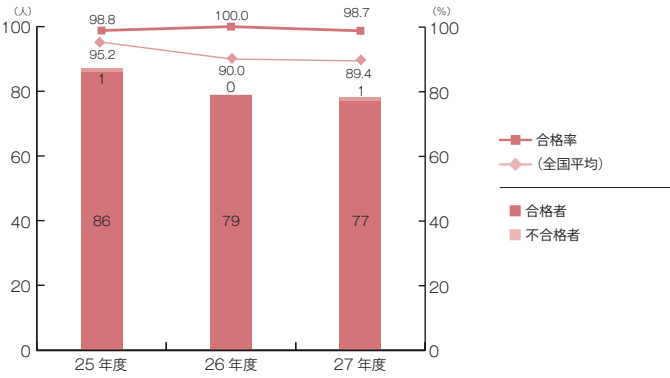
*新卒者のみ



看護師国家試験合格状況

	25 年度	26 年度	27 年度
受験者数	87	79	78
合格者数	86	79	77
不合格者数	1	0	1
合格率	98.8%	100.0%	98.7%
(全国平均)	95.2%	90.0%	89.4%

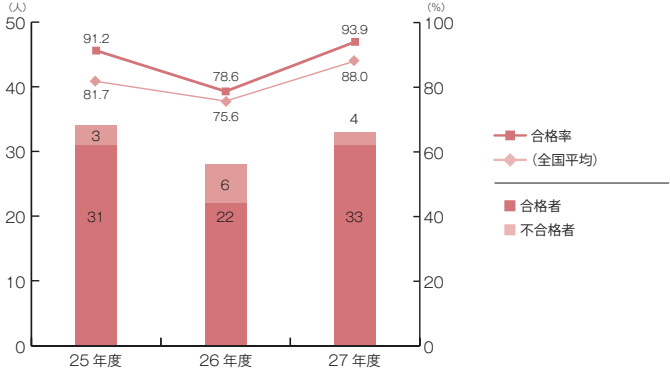
*新卒者のみ



獣医師国家試験合格状況

	25 年度	26 年度	27 年度
受験者数	34	28	33
合格者数	31	22	31
不合格者数	3	6	2
合格率	91.2%	78.6%	93.9%
(全国平均)	81.7%	75.6%	88.0%

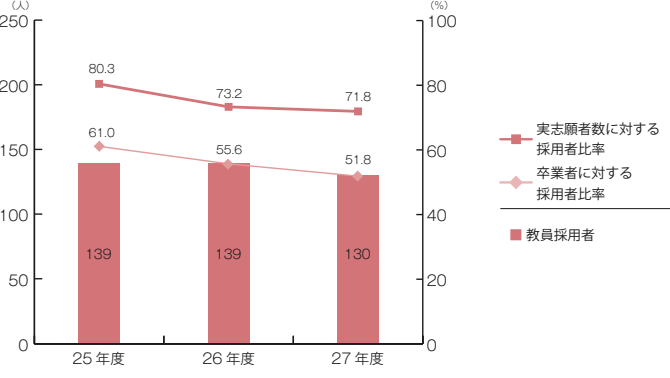
*新卒者のみ



教員採用率（教育学部）

	25 年度	26 年度	27 年度
卒業生数	228	250	251
教員実志願者数	173	190	181
教員採用者数	139	139	130
(うち臨時採用者数)	43	42	37
志願者数に対する採用者比率	80.3%	73.2%	71.8%
卒業生に対する採用者比率	61.0%	55.6%	51.8%

*学校教育教員養成課程、特別支援学校教員養成課程のみ
生涯教育課程は除く



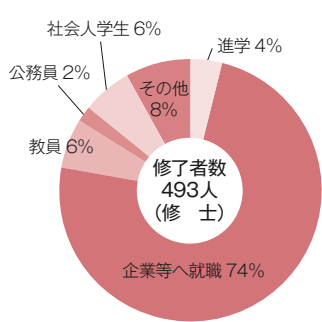
大学院修了者数・進路状況

学位授与者数（修士）

修 士	平成 27 年度	累 計
教 育 学	62	1,249
地 域 科学	16	272
再生医科学	14	178
看 護 学	5	65
工 学	311	7,278
応用生物科学	85	2,710 *
計	493	11,752

*農学の学位授与者を含む

修士・博士前期課程修了者進路状況



平成27 年度修了者進路状況（修士・博士前期課程）

進路状況

平成 28 年 5 月 1 日現在（人）

区 分	研究科名	教育学研究科	教育学研究科	地域科学研究科	医学系研究科	医学系研究科	工学研究科	応用生物科学研究科	計
		修士課程	専門職学位課程	修士課程	修士課程	博士前期課程	博士前期課程	修士課程	
卒業者数		45 (21)	17 (2)	16 (9)	5 (3)	14 (1)	311 (26)	85 (43)	493 (105)
進学者数		1					9 (4)	11 (3)	21 (7)
就職者数		36 (14)	4 (2)	2 (2)		12 (1)	286 (18)	65 (35)	405 (72)
社会人学生（現職にとどまる者）		6 (5)	13	2 (1)	5 (3)	1	2	1 (1)	30 (10)
臨床研修医									0 (0)
その他		2 (2)		12 (6)		1	14 (4)	8 (4)	37 (16)
計		45 (21)	17 (2)	16 (9)	5 (3)	14 (1)	311 (26)	85 (43)	493 (105)

産業別状況

産業分類	研究科名	教育学研究科	教育学研究科	地域科学研究科	医学系研究科	医学系研究科	工学研究科	応用生物科学研究科	計
		修士課程	専門職学位課程	修士課程	修士課程	博士前期課程	博士前期課程	修士課程	
農業、林業、漁業								8 (3)	8 (3)
鉱業、採石業、砂利採取業									0 (0)
建設業							12		12 (0)
製造業				1 (1)		10 (1)	227 (16)	29 (13)	267 (31)
電気・ガス・熱供給・水道業							4		4 (0)
情報通信業		1				1	17	2 (1)	21 (1)
運輸業、郵便業							6		6 (0)
卸売業・小売業		1						3 (3)	4 (3)
金融業・保険業		1 (1)				1			2 (1)
不動産取引・賃貸・管理業									0 (0)
学術研究、専門・技術サービス業							14 (1)	10 (7)	24 (8)
宿泊業、飲食サービス業								1 (1)	1 (1)
生活関連サービス業、娯楽業								1	1 (0)
学校教育		25 (9)	4 (2)					1 (1)	30 (12)
その他の教育・学習支援業		1							1 (0)
医療業・保健衛生		4 (3)						2 (1)	6 (4)
社会保険・社会福祉・介護事業		3 (1)						1	4 (1)
複合サービス事業				1 (1)					1 (1)
宗教、その他のサービス業							1	2 (2)	3 (2)
国家公務								1 (1)	1 (1)
地方公務							4	4 (2)	8 (2)
その他							1 (1)		1 (1)
計		36 (14)	4 (2)	2 (2)	0 (0)	12 (1)	286 (18)	65 (35)	405 (72)

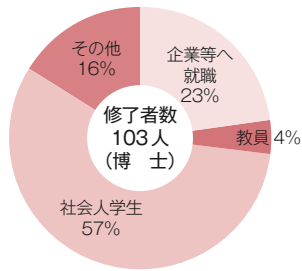
（ ）内は、女子を内数で示す。

学位授与者数（博士）

（人）

博 士		平成 27 年度	累 計
医 学	課程博士	31	959
	論文博士	4	1,479
再生医科学	課程博士	5	66
	論文博士	0	6
工 学	課程博士	26	509
	論文博士	3	77
農 学	課程博士	9	654
	論文博士	1	145
獣 医 学	課程博士	20	462
	論文博士	7	144
薬 科 学	課程博士	1	18
	論文博士	0	2
医 科 学	課程博士	2	9
	論文博士	0	0
計		109	4,530

博士・博士後期課程修了者進路状況



平成27 年度修了者進路状況（博士・博士後期課程）

進路状況

平成 28 年 5 月 1 日現在（人）

区 分	研究科名	医学系研究科	医学系研究科	工学研究科	連合農学研究科	連合獣医学研究科	連合創薬医療情報研究科	計
		博士後期課程	博士課程	博士後期課程	博士課程	博士課程	博士課程	
卒業者数		5 (3)	34 (8)	27 (4)	11 (5)	20 (5)	6 (2)	103 (27)
進学者数								
就職者数		1 (1)		10 (1)	1	14 (4)	2 (1)	28 (7)
社会人学生（現職にとどまる者）		3 (1)	34 (8)	10 (1)	3	5 (1)	4 (1)	59 (12)
臨床研修医								
その他		1 (1)		7 (2)	7 (5)	1 (0)		16 (8)
計		5 (3)	34 (8)	27 (4)	11 (5)	20 (5)	6 (2)	103 (27)

修了者数には単位修得退学者を含む。医学系研究科（博士課程）には、医学研究科を含む。

産業別状況

産業分類	研究科名	医学系研究科	医学系研究科	工学研究科	連合農学研究科	連合獣医学研究科	連合創薬医療情報研究科	計
		博士後期課程	博士課程	博士後期課程	博士課程	博士課程	博士課程	
農業、林業、漁業								0 (0)
鉱業、採石業、砂利採取業								0 (0)
建設業				1 (1)				1 (1)
製造業		1 (1)		2		3 (1)		6 (2)
電気・ガス・熱供給・水道業								0 (0)
情報通信業								0 (0)
運輸業、郵便業								0 (0)
卸売業・小売業								0 (0)
金融業・保険業								0 (0)
不動産取引・賃貸・管理業								0 (0)
学術研究、専門・技術サービス業				1	1	1 (1)	1 (1)	4 (2)
宿泊業、飲食サービス業								0 (0)
生活関連サービス業、娯楽業								0 (0)
学校教育				6		7 (1)		13 (1)
その他の教育・学習支援業								0 (0)
医療業・保健衛生						1 (1)	1	2 (1)
社会保険・社会福祉・介護事業								0 (0)
複合サービス事業						1		1 (0)
宗教、その他のサービス業								0 (0)
国家公務								0 (0)
地方公務								0 (0)
その他						1		1 (0)
計		1 (1)	0 (0)	10 (1)	1 (0)	14 (4)	2 (1)	28 (7)

（ ）内は、女子を内数で示す。

学生支援施設

福利厚生施設等

施設名	食堂・喫茶	売店	課外活動	相談窓口
大学会館	第1食堂（452席） 自動販売機コーナー 共用談話室 ルポ（ラーメン専門店）（80席）	売店、書店 現金自動預金支払機	大ホール 音楽鑑賞室 第1～第6集会室 第9～第11集会室（9,11和室）	キャリアセンター 障害学生支援室 カモミール・カフェ
第2食堂	ホール（520席） コンビニコーナー（PECO）（13席）	売店、書店		
医学部 教育・福利棟	医学部食堂（156席）			

大学会館

学生寮

施設名	室数	収容定員
黒野寮 （岐阜市柳戸1番1）	200（男性）	200
	75（女性）	75

黒野寮

体育施設・課外活動施設

施設名	施設の内容	施設名	施設の内容
屋内体育施設	体育館	第1体育館, 第2体育館 更衣室（ロッカー・シャワー）, 器具庫 フィットネスルーム	体育系サークル共用施設
	武道場	（剣道場, 柔道場）	文化系サークル共用施設
	弓道場		共用室10室（1室2サークル）, 会議室1室
屋外体育施設	陸上競技場	400m8コース	合宿所
	野球場		研修室（宿泊室と兼用）4室, 浴室, 補食室
	テニスコート	12面（人工芝6面, 全天候6面）	学外合宿研修施設
	バレーボールコート	4面（全天候）	宿泊室30室, ホール 談話室2室 研修医宿泊室6室
	ハンドボールコート	2面（クレー1面, 全天候1面）	自動車車庫
	バスケットボールコート	3面（全天候）	グライダー格納庫
	サッカー場	1面	
	ラグビー場	1面	きゅう舎・馬場
	水泳プール	1基（50m8コース）	アーチェリー場

学生サークル活動

課外活動団体一覧

全学行事団体（3団体）
岐阜大学祭全学執行委員会
岐阜大学全学春祭実行委員会
岐阜大学学生企業展実行委員会

文化系サークル（32団体）
アコースティックギターサークル「央」
囲碁部
演劇研究会
学生保安消防隊
学生放送研究会
管弦楽団
ギター・マンドリンクラブ
グルメ研究会
軽音楽部
コーラスクラブ
茶道部
GI
児童文化人形劇研究会コロッポ
写真研究会
将棋部
吹奏楽団
生物科学研究会
ツキノワグマ研究会
動物園学生くらぶ
Dream Box
美術部
フォーク村
文芸サークル
邦楽部
星を観る会
漫画研究会
ユースホステルクラブ
ユネスコ学生クラブ
落語研究会
Ryugaku Love
緑化研究会（Three trees）
ロボコンサークル

上記の他に、同好会（52団体）がある。

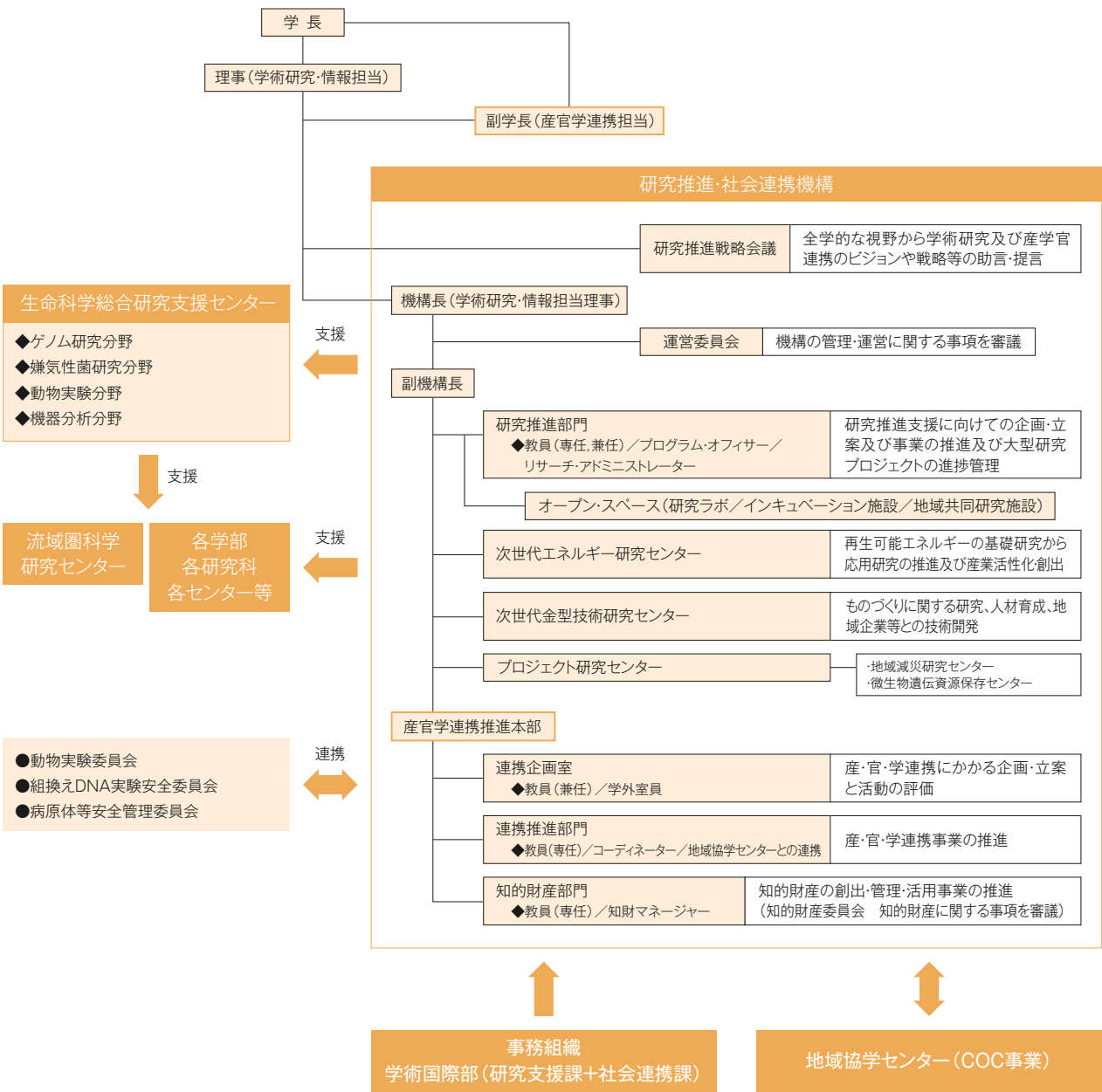
体育系サークル（36団体）
アーチェリー部
合気道サークル
アメリカンフットボール部
カヌー部
空手道部
弓道部
剣道部
航空部
硬式庭球部
硬式野球部
サイクリング部
サッカー部
山岳部
自動車部
柔道部
準硬式野球部
少林寺拳法部
水泳部
ソフトテニス部
ソフトボールサークル
体操競技部
卓球部
ダンス部
チアリーダー部
テコンドー部
馬術部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
ハンドボール部
フォーミュラレーシング
よさこいサークル
ラクロス部
ラグビー部
陸上競技部
ワンダーフォーゲル部

医学部学生団体（運動部）（18団体）
水泳
バスケットボール
硬式テニス
サッカー
陸上
スキー
ボート
ハンドボール
山岳
準硬式野球
軟式テニス
ゴルフ
ラグビー
バドミントン
弓道
剣道
バレーボール
卓球

医学部学生団体（文化部）（16団体）
GEMs（岐阜救急医療学生研究会）
奥穂高診療クラブ
熱帯医療研究会
ぎふ医療ケアサークル
箏曲
囲碁
リーベ・バルツェ（軽音）
美術
医療系学生のつどい「さるぼほ会」
カスタニエラ（バンド）
きりんの会（臨床技能）
GIFMSA（国際医学生連盟岐阜）
英語
ピアノ
料理
室内合奏団

研究推進・社会連携機構

体制図



特色ある研究の取り組み

次世代エネルギー研究センター (平成 27 年 4 月設置)

水素社会による経済発展および地球温暖化緩和には、水素ステーションや燃料電池車の普及だけでなく、再生可能エネルギーを利用した安価な水素の製造と「地域社会への水素エネルギーの普及」が重要である。そのためには、化石燃料に頼らない(CO2 フリー)新しい水素エネルギーシステムを実現するとともに、地域社会向けの魅力的な燃料電池製品を創出する必要がある。本センターでは、再生可能エネルギー（太陽光、風力、バイオマス）と水素製造・貯留・輸送・利用をキーワードに、多方面からのアプローチによって地域に普及する水素エネルギーシステムの確立を目指します。

【研究開発部門】 (人数)

次世代太陽光発電システム研究開発部門(19)、次世代バイオマスエネルギー等研究開発部門(4)、次世代生物資源応用研究開発部門(4)、次世代エネルギーストレージ・キャリア研究開発部門(2)、次世代発電量評価技術研究開発部門(4)、次世代熱エネルギー研究開発部門(2)、次世代マルチエネルギーグリッド安定化研究開発部門(4)、次世代 EV・交通・都市環境研究開発部門(2) 計 41 人

次世代金型技術研究センター (平成 28 年 4 月設置)

本センターは、旧金型創成技術研究センターと旧複合材料研究センターを基盤に設置され、複合材料及軽量高強度金属などの素形材開発、CAE を活用した金型による高度な加工技術開発、IoT やロボット技術等を活用する生産システム開発といった次世代のものづくりに関する研究の遂行、先進的なものづくり実践教育カリキュラムによる人材育成事業および地域企業等と連携した技術開発事業を展開し、日本の産業界を支援している。

【研究開発部門】 (人数)

素形材研究部門(15)、加工技術研究部門(12)、生産システム研究部門(15)、人材育成部門(7)、地域連携部門(7) 計 56 人

プロジェクト研究センター

学際領域のプロジェクト研究を推進する、特色ある 2 つのプロジェクト研究センターを設置している。

地域減災研究センター (平成 27 年 4 月設置)

本センターは、岐阜県と連携し、岐阜県の自然環境・社会情勢を踏まえた防災・減災に係る実践的な研究及び人材育成を行うことを目的として設置した。特に、防災の現場を熟知した県の防災担当職員と先端的な研究を担う大学教員との共同研究を行うことで、研究成果の実務面への活用を推進する。また、異常気象や地震などによる各種災害、生態系・生物多様性劣化による環境資源の変化、災害医療など、県民の安心・安全に係わる多様な問題に総合的に対処し、研究成果や情報提供などを通じた地域貢献を目指している。

【研究部門】 (人数)

環境モニタリング部門(9)、減災技術開発部門(15)、災害医療部門(14)、減災社会推進部門(13) 計 51 人

微生物遺伝資源保存センター (平成 28 年 4 月設置)

本センターは、病原微生物株の保存センターとして微生物遺伝資源である保有微生物株を維持しており、微生物株の寄託も受け付けている。微生物株の維持保管だけでなく、分譲可能な保有微生物株及び付随する遺伝情報については分譲して社会のニーズに即した研究及び産業応用に資する微生物遺伝資源の利用促進を図り、これらの業務を通して社会に貢献することを目的としている。

【専門分野】 (人数)

微生物学(主として細菌学) (3) 計 3 人

主な大型研究事業

岐阜大学は、プロジェクト研究センターの他にも、各種大型研究プロジェクトに応募し、採択されている。

文部科学省
革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）（COI）プログラム

年 度	プログラム名	拠点／実施部局等
平成 25 年度～	COI 拠点「革新材料による次世代インフラシステムの構築～安全・安心で地球と共存できる数世紀社会の実現～」	金沢工業大学、岐阜大学、他 2 大学、11 機関
柔軟性に富み、長期間に亘って価値を失わない数世紀社会の具現化を図るため、環境性能に優れ、高機能（軽量、長期耐久性、自己修復性、難燃性等）、かつ柔軟な設計が可能で、施工がしやすく、さらには、建設後も移設やリサイクルが容易な「革新材料」を開発する。この革新材料を社会コストの低減と新たな価値の創造が可能な次世代インフラシステム等のアプリケーションに社会実装する。		

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI プログラム）

年 度	プログラム名	拠点／実施部局等
平成 19 年度～	物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）	京都大学／応用生物科学部
本拠点の目的は、細胞の化学原理を理解し、幹細胞をはじめとする細胞の機能を操作する化学物質や、細胞機能に触発された機能材料を創成することである。究極的には、物質－細胞統合科学という新たな研究領域の開拓を目指す。 本学は、この拠点のサテライト機関となっている。		

科学技術人材育成費補助事業

岐阜大学は、科学技術分野における人材の育成、確保、活躍促進のための事業に応募し、採択されている。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

年 度	プログラム名	拠点／実施部局等
平成 27 ～ 32 年度	地域循環型女性研究者育成・支援プログラム	岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アビ株式会社
本事業は、岐阜大学が代表機関となり、共同実施機関である岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アビ株式会社とともに、各々の特徴を活かして連携する取り組みである。共同研究を通じて女性研究者の研究力を強化するとともに、地域内での女性研究者の流動性を高めつつ、安定した活躍の場を確保することによって、地方創生にも繋げるプログラムである。 本事業では、連携型共同研究プロジェクト支援によって女性研究者の研究力を強化するとともに、女性限定教員公募等のポジティブ・アクション実施、リーダーシップ育成教育等の実施により、女性研究者比率向上と女性研究者の上位職（教授、准教授・講師）登用を積極的に進めることを目標としている。		
取り組み内容 ・ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み ・女性研究者の研究力向上のための取り組み ・女性研究者の上位職への積極登用にに向けた取り組み		
研究補助員配置制度による支援／メンター制度の体制構築 連携型共同研究プロジェクト支援／人財バンクの利用拡大 企業インターンシップの実施／トップマネジメント・セミナーの開催		

テニュアトラック普及定着事業

年 度	プログラム名	拠点／実施部局等
平成 23 ～ 30 年度	テニュアトラック普及定着事業	工学部、応用生物科学部、医学系研究科
本事業は、岐阜大学の中期目標・中期計画に掲げる環境科学や生命科学系の研究を柱とした独創的、先進的な研究拠点を形成するための優秀な若手研究者を確保するため、新たな人事制度として、テニュアトラック制度を構築するものである。具体的には、国際公募の実施によって国内外の若手研究者の応募を促し、公正で透明性の高い選考方法により採用し、任期付雇用形態（テニュアトラック）から審査を経て任期のないより安定的な職を得るよう、また、研究主宰者として自立した研究環境の中で研究活動を実施できるよう組織的な支援を行う。		

科学研究費助成事業

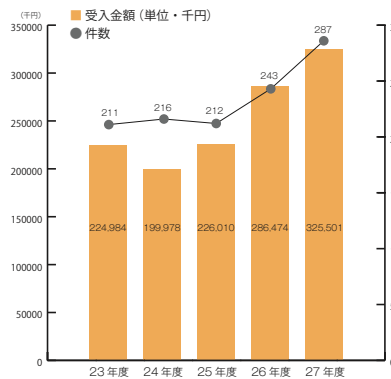
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（平成 27 年度支出実績）

研究種目	件数	直接経費 （千円）	間接経費 （千円）	部 局 別 件 数																		
				教育学部	教育学研究科	地域科学部	医学部	医学系研究科	医学部附属病院	工学部	工学研究科	応用生物科学部	連合農学研究科	連合獣医学研究科	連合創薬医療情報研究科	流域園科学工研究センター	生命科学総合研究支援センター	総合情報メディアセンター	留学生センター	保健管理センター	研究推進・社会連携機構	教育推進・学生支援機構
新学術領域研究	13	61,750	17,640					3		8		2										
基盤研究（S）	1	14,700	4,410	1																		
基盤研究（A）	8	49,100	13,440			1				2		3				2						
基盤研究（B）	41	176,923	52,650				1	7	1	7	1	17	1		1	3	1	1				
基盤研究（C）	189	204,832	65,790	20	6	8	8	42	20	42	2	31		1		1	2	2	2		1	1
挑戦の萌芽研究	42	42,041	13,320	4			5	7	2	4		15	1			2	1		1			
若手研究（A）	5	14,185	4,140	1						1		2				1						
若手研究（B）	66	67,286	19,265	7		5	5	14	10	12		10					1					2
研究活動スタート支援	8	7,579	2,280	1			1	3		1		1							1			
奨励研究	2	1,000	－						2													
成果公開促進費 （学術図書）	1	576	－			1																
特別研究員奨励費 （国内）	12	11,440	522					2		1			2	6		1						
特別研究員奨励費 （海外）	2	2,300	－									1				1						
総計	390	653,712	193,457	34	6	15	20	78	35	78	3	82	4	7	1	11	5	3	3	1	1	3

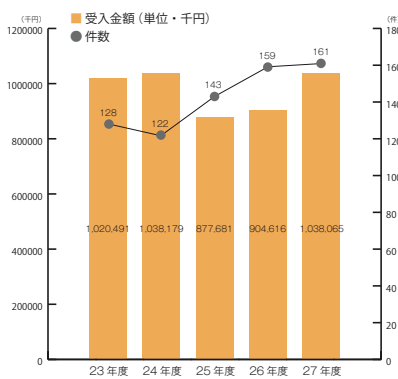
※千円未満切り捨て
※件数は繰越課題を含むため延べ数。
※金額は、単位未満切り捨てのため合計は必ずしも一致しません。

共同研究・受託研究

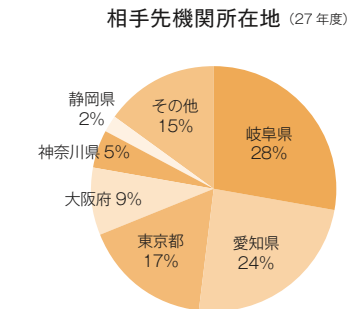
共同研究



受託研究



共同研究実績

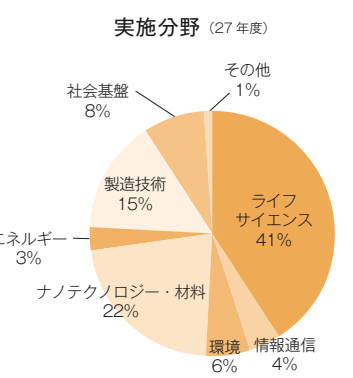


共同研究・受託研究部局別受入実績

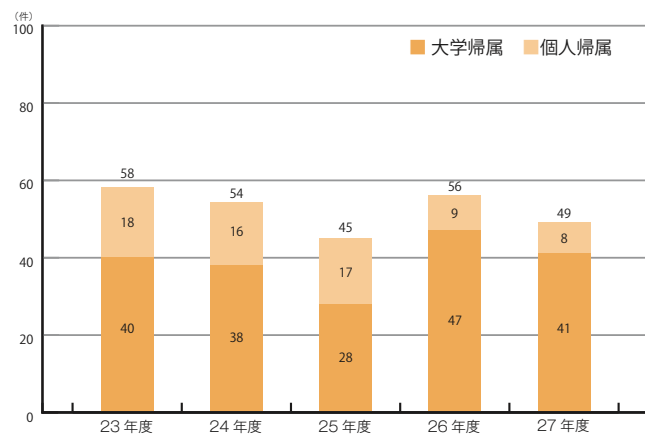
平成 27 年度（金額単位：千円）

部 局	共同研究		受託研究	
	受入件数	受入金額	受入件数	受入金額
教育学部	5	14,168	0	0
地域科学部	1	220	0	0
医学系研究科・医学部	22	36,970	25	260,992
医学部附属病院	16	4,695	67	12,591
工学部	150	163,340	40	377,445
応用生物科学部	66	65,896	16	124,818
連合農学研究科	4	3,730	0	0
連合獣医学研究科	0	0	0	0
連合創薬医療情報研究科	3	7,025	5	227,823
研究推進・社会連携機構	0	0	1	2,243
流域圏科学研究センター	4	3,375	3	17,537
生命科学総合研究支援センター	3	1,992	1	3,390
総合情報メディアセンター	5	6,736	1	1,382
金型創成技術研究センター	2	10,659	0	0
保健管理センター	0	0	1	600
複合材料研究センター	6	6,696	1	9,244
合 計	287	325,501	161	1,038,065

複数部局での合同契約については、受入金額の多い部局で 1 件として計上されるため、0 件になる場合がある。



発明届



社会連携

For society

貢献する岐阜大学

地域連携

地方自治体等との協定締結

本学は、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、地方自治体等と包括的連携・協力に関する協定を締結して、多様な分野で連携活動を積極的に進めている。

包括連携協定

自治体等	締結日	主な連携活動（平成 27 年度）＊
大垣市	H18. 3.31	ものづくり名工塾事業への協力 清流の国 ぎふエネルギー・環境科学ネットワークへの参加
各務原市 各務原商工会議所	H19.10.10	各務野科学ラボの監修・指導
羽島市	H20. 2.26	羽島市民病院への医師派遣・実習生の受け入れ
岐阜県	H20. 3.28	岐阜県・国立大学法人岐阜大学連携推進会議の実施 職員交流事業による本学教員の生涯学習・社会教育政策監への就任 地域コーディネーター研修プログラムによる県職員の受け入れ 清流の国ぎふ防災・減災センターの設置
関市	H20. 9.16	へき地医療確保のための医療支援
美濃市	H20.12.17	岐阜大学ブランド野菜「仙寿菜」の生産販売等に関する連携
岐阜市	H21. 2.27	地域コーディネーター研修プログラムによる市職員の受け入れ 岐阜地域産学官連携交流会の開催
高山市	H21. 4.17	地域コーディネーター研修プログラムによる市職員の受け入れ 「The 学」（本学教員による出前講義）の開催
御嵩町	H21.10.28	低炭素のまちづくり（太陽光発電の利活用など）への協力
郡上市	H24. 3.19	地域コーディネーター研修プログラムによる市職員の受け入れ
美濃加茂市	H27. 9.18	「ぎふフューチャーセンター」（多様な人びとが集い議論する「場」）の実施
北方町	H27.11.20	北方町南東部地域再生計画策定への協力
中津川市	H27.12.15	「ぎふフューチャーセンター」（多様な人びとが集い議論する「場」）の実施
揖斐川町	H28. 1.19	揖斐川町久瀬・小津地区の地域活性化支援
岐南町	H28. 1.29	岐南町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定への協力

＊ここに挙げる活動の他、各種審議会、委員会等の委員への就任及び各種研修講師として本学教員が多数協力している。

その他の連携協定・覚書

自治体等	締結日	主な協定内容
岐阜県	H23.11.24	災害時等の大学等高等教育機関による支援協力
	H26. 3.20	家畜衛生に係る教育及び防疫等の連携
	H27.11.16	食品科学分野の連携
岐阜市	H18. 3.28	岐阜薬科大学との連携
	H20.10. 9	災害時における施設開放
多治見市	H22. 2. 4	産官学連携

地域連携事業の推進

本学は、地域社会の活性化に資することを目的に、平成 19 年度から政策経費「岐阜大学活性化経費（地域連携）」を設け、地域連携事業を推進している。また平成 26 年度からは、大学 COC 事業の一環として、学際的に複数の学問の「協働」、分野・部局横断的な連携の強化、自治体・NPO 団体・地域団体・民間事業者等との「協学」を進めながら、地域の課題解決に貢献する積極的な取り組みを「地域志向学プロジェクト」として位置付け支援している。

○岐阜大学活性化経費（地域連携） 平成 27 年度：7 事業

○地域志向学プロジェクト 平成 27 年度：21 件

公開講座・シンポジウム・フォーラム

公開講座

本学は、教育研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の教育文化の向上に資することを目的に、各学部及びセンターが様々な内容の公開講座を実施している。また、小・中・高校生を対象とした講座では、公開講座のほかに、ものづくり講座などの体験講座を開催している。平成 28 年度の開講数（5 月現在決定分）は次のとおりである。

- 一般市民・社会人を対象とした公開講座 3 講座
- 小・中・高校生を対象とした公開講座 23 講座

岐阜シンポジウム

本学は、地域の知の拠点として、地球規模あるいは社会全体が抱える課題である環境、バイオ、情報、教育などの 21 世紀の重要テーマについて、岐阜大学の研究成果とともに最新の情報を社会に発信するため、平成 13 年度から「岐阜シンポジウム」を年 2 回程度開催している。

- 平成 27 年度 第 30 回「岐阜の自然・文化・芸術を発信する！」
- 第 31 回「ビタミン A のはたらき」

岐阜大学フォーラム

大学を活性化するため、優れた学問を発展させてきた一流の研究者による講演会を定期的に開催している。

- 平成 27 年度 第 45 回「人口減少社会と国立大学の将来ビジョン」
- 第 46 回「環境ユニバーシティフォーラム アクア・トトの学芸員が語るホントの水族館 ～生物多様性と飼育員の苦労話～」

市民大学講座

岐阜大学シティカレッジプログラム

本学は、「ぎふ中日文化センター」において、提携講座「岐阜大学シティカレッジプログラム」を開催している。この講座は、本学と中日新聞社が共同で行う“市民大学講座”で、本学の教員が社会や暮らしに密着したテーマを取り上げ、楽しく分かりやすく講義している。

- 平成 27 年度実施講座 8 講座

高大連携

本学は、地元を中心とした高等学校との連携を図り、高校生が様々な研究分野への理解を深め、学問への動機づけや学習意欲の喚起を目的とした事業の実施及び高等学校関係者との意見交換等を通じて高校・大学相互に教育の現状理解を深めるための活動を行っている。

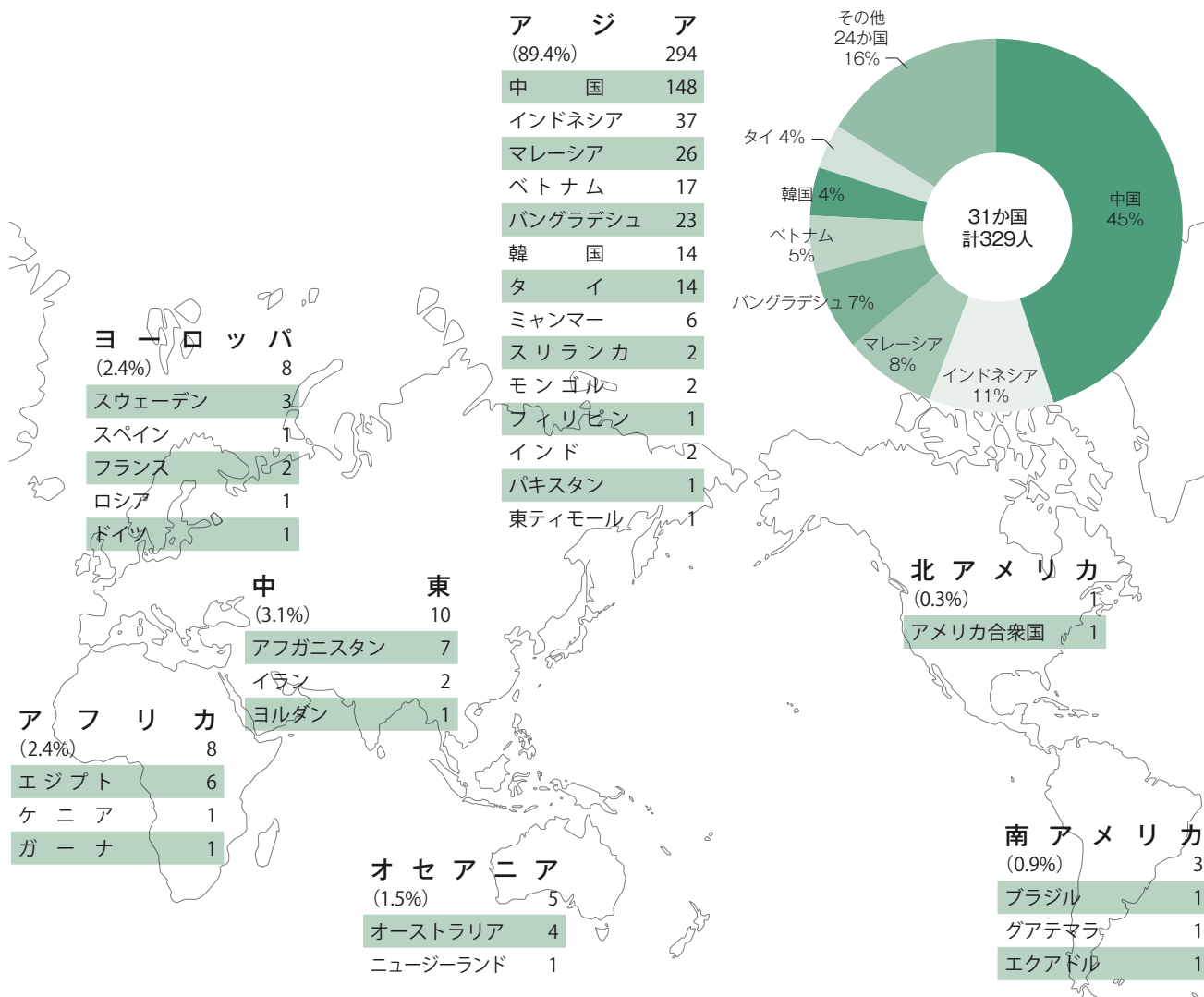
- （平成 27 年度実績）
- 高等学校への出前講義 150 講座
- （平成 28 年度の開設数は、人文科学 20、社会科学 16、理学 30、応用科学 105、医学・福祉 37、総合 20、計 228 講座である。）

- ネットワーク大学コンソーシアム岐阜（高大連携・情報発信部会）
- ・高大連携セミナー（平成 27 年 12 月 4 日開催）

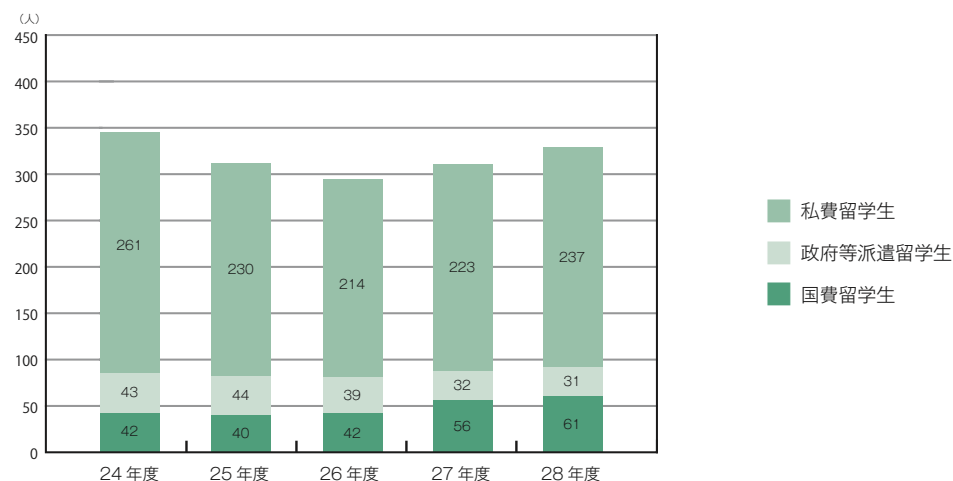
国際交流 International Relations

留学生受入・派遣状況

国(地域)別外国人留学生数（平成 28 年 5 月 1 日現在）（人）



外国人留学生受け入れ数の推移



交換留学

(人)

国名	大学名	派遣年度			受入年度		
		25	26	27	25	26	27
中国	広西大学				1	1	1
	電子科技大学				2	1	2
	吉林大学						
	華僑大学				1	1	1
	内蒙古大学				1	1	1
	江南大学				1		3
韓国	ソウル科学技術大学校		1		2	1	3
	木浦大学校	1			1	2	1
	高麗大学校						
タイ	カセサート大学				1	2	2
	チェンマイ大学						
オーストラリア	シドニー工科大学	3	1	2	2	2	2
	シドニー大学					1	1
スウェーデン	ルンド大学		2		2	2	2
ドイツ	エルフルト大学	1	1		1		
	バイロイト大学				1		
米国	サンディエゴ州立大学	1			1	2	
	ノーザンケンタッキー大学	2		2		2	1
	ユタ大学				2		
	ウェストバージニア大学		2	2			
合計		8	7	6	19	18	20

夏期短期留学(サマースクール)

(人)

国名	大学名	派遣年度			受入年度		
		25	26	27	25	26	27
韓国	ソウル科学技術大学校	5	3	2	1		
	木浦大学校	1			3	4	3
オーストラリア	グリフィス大学	11	20	25			
スウェーデン	ルンド大学				17	17	17
米国	ノーザンケンタッキー大学						2
合計		17	23	27	21	21	22

学術交流協定締結大学等一覧

大学間協定(16カ国45大学1機関)

機関名	国名	協定締結日
カンピーナス大学	ブラジル	1984. 8.27
サンディエゴ州立大学	米国	1985. 5. 7
浙江大学	中国	1986. 4.21
広西大学	中国	1986. 4.24
電子科技大学	中国	1986. 7.21
江南大学	中国	1986. 9. 3
中国医科大学	中国	1987. 8.15
ルンド大学	スウェーデン	1987. 9.12
ノーザンケンタッキー大学	米国	1990. 9.26
ソウル科学技術大学校	韓国	1992. 3.19
グリフィス大学	オーストラリア	1995. 3. 3
ユタ大学	米国	1997. 5.28
ユタ州立大学	米国	1997. 5.29
ハノイ工科大学	ベトナム	1998. 6.26
ウェストバージニア大学	米国	1998.12.16
カセサート大学	タイ	1999. 8. 5
内蒙古農業大学	中国	2000. 8. 8
シドニー工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
バンノン大学	ハンガリー	2001. 3. 2
アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23
エルフルト大学	ドイツ	2002.12. 4
吉林大学	中国	2003. 5.20
チェンマイ大学	タイ	2003. 8. 4

平成28年5月1日現在

機関名	国名	協定締結日
ダッカ大学	バングラデシュ	2004. 6.17
モンクット王トンブリ工科大学	タイ	2005. 1.10
華僑大学	中国	2005. 3.29
同济大学	中国	2006. 3.16
ランボン大学	インドネシア	2006. 4.25
内蒙古大学	中国	2007. 2. 6
木浦大学校	韓国	2008. 2.26
シバジ大学	インド	2008. 3.18
バイロイト大学	ドイツ	2008. 8.22
西南交通大学	中国	2008. 9. 5
ベンハー大学	エジプト	2009. 3.18
高麗大学校	韓国	2010. 1.15
カウナス工科大学	リトアニア	2010. 3. 8
ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12. 2
内蒙古師範大学	中国	2011. 6. 8
ウィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2012. 1.19
ガジヤマダ大学	インドネシア	2012. 9.13
シドニー大学	オーストラリア	2012.12. 5
スプラス・マレット大学	インドネシア	2013. 7. 8
パリ第11大学	フランス	2014.12.16
タイ教育省基礎教育委員会	タイ	2015. 3.10
インド工科大学グワハティ校	インド	2015. 6.23

部局間協定

機 関 名	国 名	協定締結日	協定部局
チュラロンコン大学 理学部	タ イ	1994. 3 .15	応用生物科学部
コンケン大学 農学部	タ イ	2000. 3 .27	応用生物科学部
コンケン大学 学部間共同開発研究所	タ イ	2000. 3 .27	応用生物科学部
コンケン大学 医学部	タ イ	2000.12.18	医 学 部
国立全南大学校 工学部	韓 国	2002. 2 . 6	工 学 部
中国科学院 水利部水土保持研究所	中 国	2008. 8 .12	インフラマネジメント技術研究センター
国立獣医科学検疫院 獣医科学研究所	韓 国	2008.11. 4	応用生物科学部
忠北大学校 医学部	韓 国	2009. 4 .17	医学系研究科・医学部
中国水利水電科学研究院 岩土工程研究所	中 国	2009. 7 .24	インフラマネジメント技術研究センター
カフル・エル・シェイク大学 獣医学部	エ ジ プ ト	2009.11.15	連合創薬医療情報研究科
柳韓大学校 工学系列	韓 国	2010. 9 .29	工 学 部
アルバータ大学 理学部	カ ナ ダ	2011. 6 .30	応用生物科学部
ベングル大学 数学自然科学部	インドネシア	2011. 7 .20	工 学 部
アッサム大学 生命科学部	イ ン ド	2012. 7 .19	連合農学研究科
サー・バラシュラム・カレッジ	イ ン ド	2012. 9 .17	工 学 部
モンゴル国立大学 地理地質学部	モ ン ゴ ル	2012.10.29	応用生物科学部
チュラロンコン大学 理学部	タ イ	2012.12. 6	連合農学研究科
忠南大学校 工学部	韓 国	2013. 1 .18	工 学 部
マドリード・カルロス三世大学 工学部	ス ペ イン	2013. 7 . 9	工 学 部
マレーシア国民大学 理工学部	マレーシア	2014. 1 .22	工 学 部
EMC2 クラスター・IRT ジュール・ヴェルヌ	フ ラ ンス	2014. 3 .13	複合材料研究センター
ドルトムント工科大学 機械工学部	ド イ ツ	2014. 6 .23	工 学 部
マンダレー大学 自然科学部	ミャンマー	2014. 8 .25	工 学 部
ブラヴィジャヤ大学 数学自然科学部	インドネシア	2014.12.16	工 学 部
ヤダナボン大学 自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	工 学 部
メティラ大学 自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	工 学 部
ディアンキマティ工科大学 工学部	ケ ニ ア	2014.12.16	工 学 部
トウルク・アブドゥル・ラーマン大学 理工学部	マレーシア	2014.12.16	工 学 部
ハメ応用科学大学 バイオエコノミーユニット	フィンランド	2015. 1 .22	応用生物科学部
慶北大学校 工学部	韓 国	2015. 2 .27	工 学 部
シーナカリンウィロート大学 教育学部	タ イ	2015. 3 .17	教 育 学 部
アメリカ合衆国国立衛生研究所 国立心臓血液研究所	米 国	2015. 3 .18	工 学 部
バーデン・ヴェルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ド イ ツ	2015. 3 .20	工 学 部
アーカンソー大学フォートスミス校	米 国	2015. 6 . 8	地域科学部
チュイロイ大学	ベトナム	2015. 6 .25	連合農学研究科
ブンハッタ大学	インドネシア	2015. 7 .30	工 学 部
バンドン工科大学 生命科学工学部	インドネシア	2015. 8 .11	連合農学研究科
ガーナ大学 基礎応用科学部	ガ ー ナ	2015. 8 .20	応用生物科学部
ガーナ大学 基礎応用科学部	ガ ー ナ	2015. 8 .20	連合獣医学研究科
パダン州立大学 数学自然科学部	インドネシア	2015. 9 .18	工 学 部
リール第3大学	フランス	2015.10. 1	地域科学部
カールスルーエ教育大学	ド イ ツ	2015.10.21	教 育 学 部
クラクフ工科大学 環境工学部	ポーランド	2015.11.30	工学部・流域圏科学研究センター
チュラロンコン大学 理学部	タ イ	2015.12. 2	工 学 部
山西師範大学	中 国	2015.12. 7	教 育 学 部
ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	2016. 4 .25	工 学 部

平成 28 年 5 月 1 日現在

研究者受入・派遣状況

外国人研究者受入数，来訪者数

平成 27 年度

外国人研究者	46 人
外国人来訪者	160 人

海外渡航者数

平成 27 年度

出 張	618 人
研 修	25 人

*非常勤職員を除く

国際交流会館

施 設 名	施設の概要		
	宿 泊 室		そ の 他
国際交流会館 (岐阜市柳戸1番1)	A 棟	単 身 室 31	会議室・研修室，談話室
		夫 婦 室 2	
		家 族 室 3	
	B 棟	単 身 室 38	多目的ホール，和室
		夫 婦 室 12	
		家 族 室 4	
	C 棟	単 身 室 11	
		夫 婦 室 2	
		家 族 室 4	

海外オフィス

本学では、外国人学生・研究者との交流の促進を目的として、海外オフィスを設置している。

岐阜大学上海オフィス(中国)

201315 中華人民共和国上海市御青路 1043 号
電話：86-21-58124777
FAX：86-21-58124778

岐阜大学スプラス・マレット大学内オフィス(インドネシア)

Sebelas Maret University,
Jl. Ir. Sutami 36A, Surakarta 57126
Indonesia

岐阜大学ダッカ大学内オフィス(バングラデシュ)

University of Dhaka,
Ramna, Dhaka 1000, Bangladesh

岐阜大学広西大学内オフィス(中国)

広西大学
中国広西南寧市大学東路 100 号

役員等一覧

役 員 等	
学 長	森 脇 久 隆
理 事(企画・評価・基金担当)・副学長	杉 戸 真 太
理 事(教学・附属学校担当)・副学長	江 馬 諭
理 事(学術研究・情報担当)・副学長	福 士 秀 人
理 事(国際・広報担当)・副学長	鈴 木 文 昭
理 事(総務・財務担当)・副学長	横 山 正 樹
監 事	吉 田 隆 春
監 事(非常勤)	片 桐 多 恵 子
副学長・医学部附属病院長	小 倉 真 治
副学長(多様性人材活力推進担当)	林 正 子
副学長(産官学連携担当)	王 志 剛
経営協議会委員	
学 長	森 脇 久 隆
理 事(企画・評価・基金担当)・副学長	杉 戸 真 太
理 事(教学・附属学校担当)・副学長	江 馬 諭
理 事(学術研究・情報担当)・副学長	福 士 秀 人
理 事(国際・広報担当)・副学長	鈴 木 文 昭
理 事(総務・財務担当)・副学長	横 山 正 樹
副学長・医学部附属病院長	小 倉 真 治
副学長(多様性人材活力推進担当)	林 正 子
副学長(産官学連携担当)	王 志 剛
(株)十八楼 取締役若女将	伊 藤 知 子
岐阜薬科大学長	稲 垣 隆 司
(株)岐阜新聞社 代表取締役社長	碓 井 洋
(株)岡本 代表取締役会長	岡本太右衛門
太平洋工業(株) 代表取締役社長	小 川 信 也
岐阜県副知事	上 手 繁 雄
(独)国立科学博物館 顧問	佐 々 木 正 峰
岐阜市長	細 江 茂 光
(株)十六銀行 取締役頭取	村 瀬 幸 雄
日本放送協会岐阜放送局長	山 内 雄 敦

教育研究評議会委員	
学 長	森 脇 久 隆
理 事(企画・評価・基金担当)・副学長	杉 戸 真 太
理 事(教学・附属学校担当)・副学長	江 馬 諭
理 事(学術研究・情報担当)・副学長	福 士 秀 人
理 事(国際・広報担当)・副学長	鈴 木 文 昭
理 事(総務・財務担当)・副学長	横 山 正 樹
副学長・医学部附属病院長	小 倉 真 治
副学長(多様性人材活力推進担当)	林 正 子
副学長(産官学連携担当)	王 志 剛
教育学部長	池 谷 尚 剛
地域科学部長	和 佐 田 裕 昭
医学系研究科長	湊 口 信 也
工学部長	野々村修一
応用生物科学部長	福 井 博 一
連合農学研究科長	千 家 正 照
連合獣医学研究科長	石 黒 直 隆
連合創薬医療情報研究科長	丹 羽 雅 之
地域協学センター長	益 川 浩 一
流域圏科学研究センター長	栗 屋 善 雄
生命科学総合研究支援センター長	田 中 香 お 里
総合情報メディアセンター長	内 田 裕 市
留学生センター長	森 田 晃 一
保健管理センター長	山 本 眞 由 美
教育学部 教授	別 府 哲
地域科学部 教授	洞 澤 伸
医学系研究科・医学部 教授	原 明
工学部 教授	板 谷 義 紀
応用生物科学部 教授	杉 山 誠
教育推進・学生支援機構 教授	野 村 幸 弘
研究推進・社会連携機構 教授	大 矢 豊

学部長・センター長等		
教育学部	学部長	池 谷 尚 剛
	副学部長	山 田 敏 弘
	副学部長	別 府 哲
	副学部長	今 井 一
	附属特別支援教育センター長	村 瀬 忍
	附属小学校長	須 本 良 夫
	附属小学校副校長	熊 崎 盛 敏
	附属中学校長	須 本 良 夫
	附属中学校副校長	伏 屋 英 幸
地域科学部	学部長	和 佐 田 裕 昭
	副学部長	土 岐 邦 彦
	副学部長	洞 澤 伸
医学系研究科・医 学 部	研究科長(学部長)	湊 口 信 也
	副研究科長(副学部長)	原 明
	副研究科長(副学部長)	秋 山 治 彦
	副学部長	奥 村 太 志
	附属地域医療医学センター長	村 上 啓 雄
医学部附属病院	病院長	小 倉 真 治
	副病院長	飯 田 宏 樹
	副病院長	村 上 啓 雄
	副病院長	清 水 雅 仁
	副病院長	秋 山 治 彦
	副病院長	廣 瀬 泰 子
工 学 部	学部長	野々村修一
	副学部長	板 谷 義 紀
	副学部長	村 井 利 昭
	副学部長	小 林 智 尚
	附属インフラマネジメント技術研究センター長	沢 田 和 秀
	ものづくり技術教育支援センター長	今 尾 茂 樹

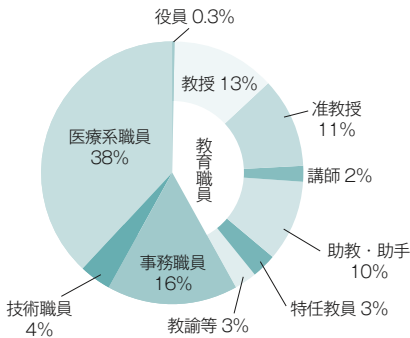
応用生物科学部	学部長	福 井 博 一
	副学部長	杉 山 誠
	副学部長	向 井 譲
	副学部長	光 永 徹
	附属岐阜フィールド科学教育研究センター長	大 場 伸 也
	附属動物病院長	前 田 貞 俊
	附属野生動物管理学研究センター長	鈴 木 正 嗣
	附属比較がんセンター長	森 崇
	附属共同獣医学教育開発推進センター長	杉 山 誠
	附属家畜衛生地域連携教育研究センター長	北 川 均
連合農学研究科	研究科長	千 家 正 照
連合獣医学研究科	研究科長	石 黒 直 隆
連合創薬医療情報研究科	研究科長	丹 羽 雅 之
図 書 館	図書館長	福 士 秀 人
	医学図書館長	森 田 啓 之
グローバル推進本部	本部長	鈴 木 文 昭
情報連携統括本部	本部長	福 士 秀 人
地域協学センター	センター長	益 川 浩 一
流域圏科学研究センター	センター長	栗 屋 善 雄
生命科学総合研究支援センター	センター長	田 中 香 お 里
総合情報メディアセンター	センター長	内 田 裕 市
留学生センター	センター長	森 田 晃 一
保健管理センター	センター長	山 本 眞 由 美
医学教育開発研究センター	センター長	藤 崎 和 彦
教育推進・学生支援機構	機構長	江 馬 諭
研究推進・社会連携機構	機構長	福 士 秀 人

役員・職員数

区 分	役 員	教育職員							一般職員			合 計
		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	特任教員	附属学校 教諭	事務	技術	医療	
学長	1											1
理事	5											5
監事	1 1(1)											1 1(1)
大学本部									152 (63)	34 (4)		186 (67)
教育学部		40 (6)	31 (7)		7 (2)		1		17 (9)	1		97 (24)
教育学研究科		5 (1)	6 (1)				4					15 (2)
教育学部附属小学校								29 (10)				29 (10)
教育学部附属中学校								27 (7)				27 (7)
地域科学部		23 (4)	16 (3)	1	7 (3)				8 (2)			55 (12)
医学部		11 (6)	11 (8)		16 (15)	1 (1)	1 (1)		26 (9)			66 (40)
医学系研究科		40 (2)	31 (2)	6 (1)	32 (8)		18 (2)			4 (3)		131 (18)
医学部医学教育開発研究センター		3	1		2 (1)		1					7 (1)
医学部附属病院			17	27 (3)	75 (12)				72 (27)	8 (2)	774 (638)	973 (682)
工学部		73 (4)	57 (3)		37 (3)		1		26 (9)	11		205 (19)
応用生物科学部		46	40 (4)		17 (8)		4		22 (8)	23 (10)		152 (30)
連合農学研究科		1										1
連合獣医学研究科		1										1
連合創薬医療情報研究科		2					2 (1)					4 (1)
教育推進・学生支援機構			2				8 (2)		1			11 (2)
研究推進・社会連携機構		1	1				7 (2)					9 (2)
流域圏科学研究センター		6	7 (3)		2	1	1					17 (3)
生命科学総合研究支援センター		3 (1)	2		7		2 (1)					14 (2)
総合情報メディアセンター		6	3 (1)		2 (1)							11 (2)
留学生センター		2 (1)	3 (2)									5 (3)
保健管理センター		1 (1)	1		2 (1)						3 (3)	7 (5)
地域協学センター		1					4 (1)					5 (1)
グローバル推進本部							1 (1)					1 (1)
男女共同参画推進室							2 (2)					2 (2)
合 計	7 1(1)	265 (26)	229 (34)	34 (4)	206 (54)	2 (1)	57 (13)	56 (17)	324 (127)	81 (19)	777 (641)	2038 (936) 1 (1)

() 内は女性の人数を内数で示す。青字は非常勤役員を外数で示す。 特任教員は常勤のみ。

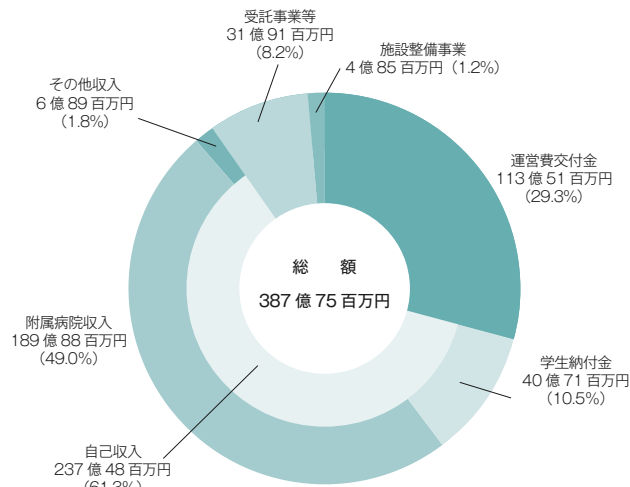
役員・職員の構成比率



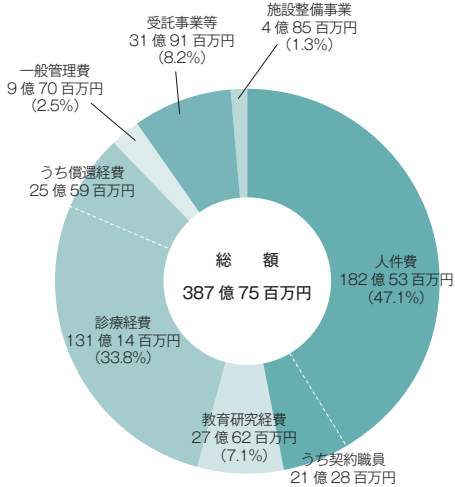
予 算

平成 28 年度岐阜大学の予算

【収 入】



【支 出】



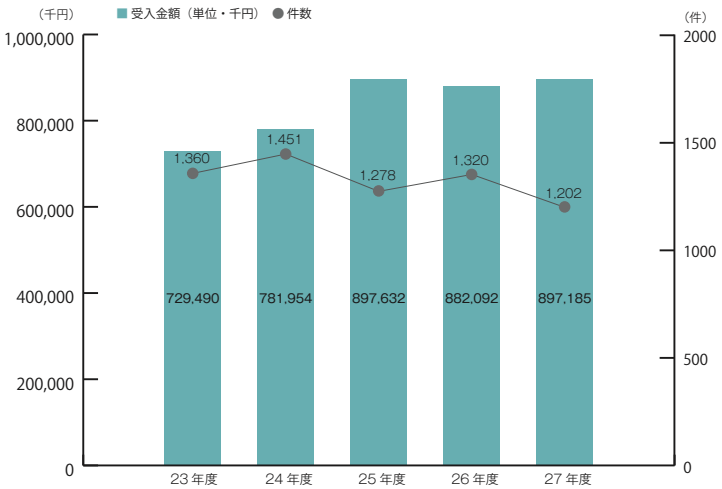
寄附金

奨学寄附金（平成 27 年度実績）

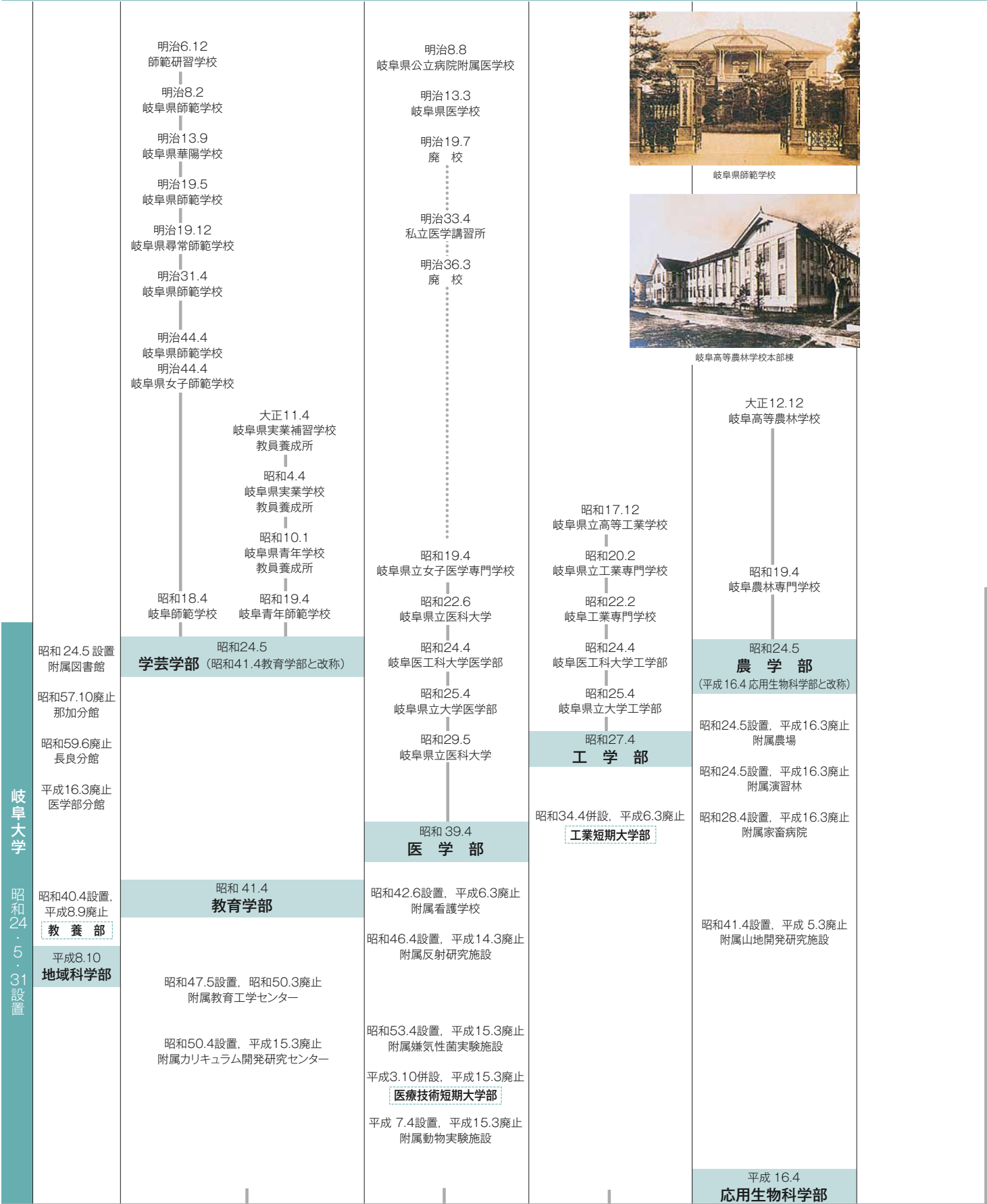
（単位：千円）

区 分	件 数	金 額
岐阜大学基金	310	30,179
教育学部	19	11,096
附属小学校	2	12,120
附属中学校	1	7,990
地域科学部	3	855
医学部	357	510,190
医学部附属病院	102	95,758
工学部	149	109,659
応用生物科学部	226	64,823
連合農学研究科	2	500
連合創薬医療情報研究科	2	4,000
研究推進・社会連携機構	3	1,052
流域圏科学研究センター	14	24,869
生命科学総合研究支援センター	6	21,941
総合情報メディアセンター	4	1,450
保健管理センター	1	500
地域協学センター	1	200
合 計	1,202	897,185

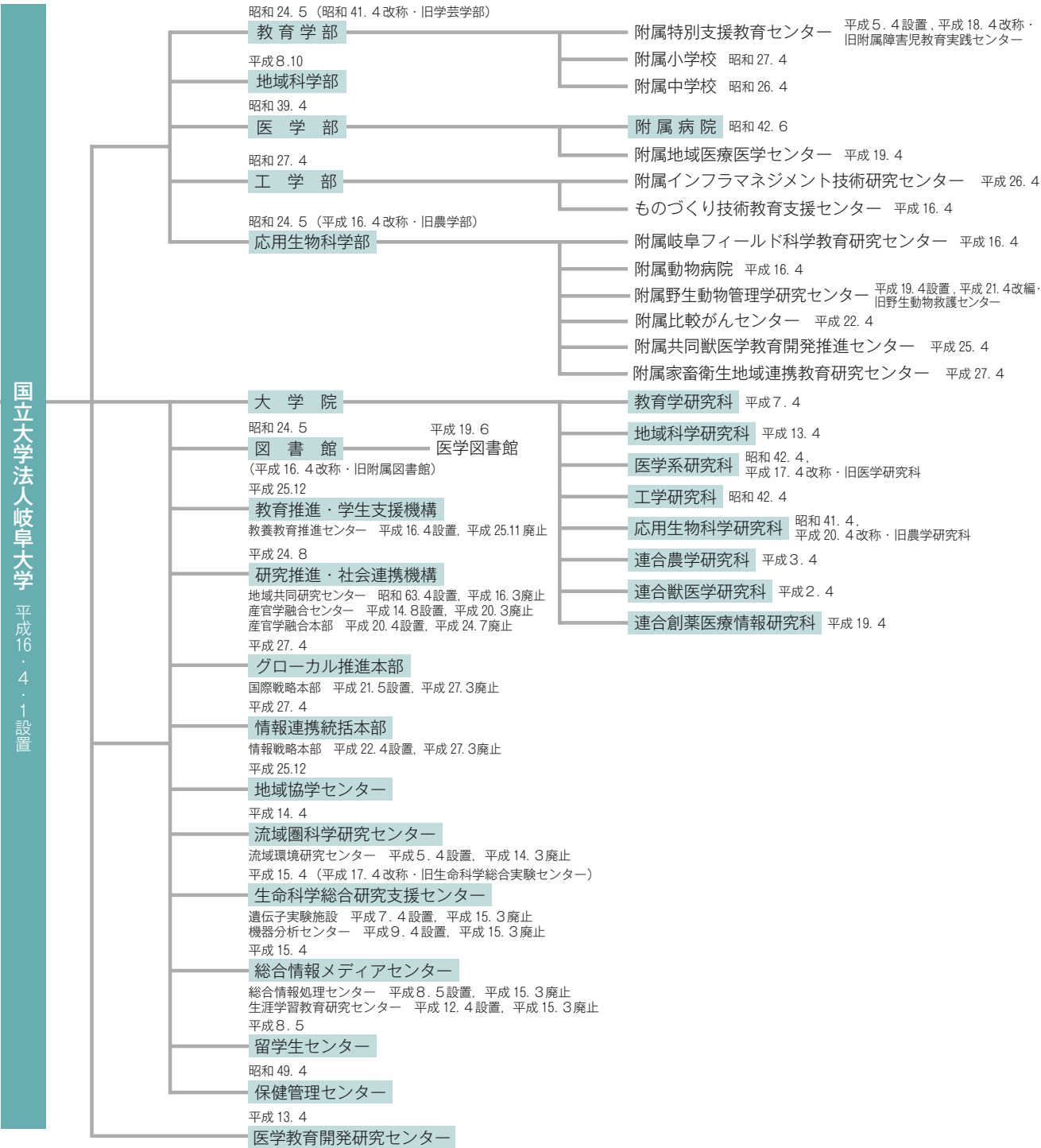
千円未満は切り捨てとし、医学部には寄附講座分 230,000 千円、
応用生物科学部には寄附研究部門分 20,000 千円、
生命科学には寄附研究部門分 20,000 千円を含む
※金額は、単位未満切り捨てのため合計は必ずしも一致しません。



沿革



歴代学長	初代	青木文一郎	昭和24年5月31日	～	昭和29年7月1日
	事務取扱	高橋 悌蔵	昭和29年7月1日	～	昭和30年5月31日
	第2代	吉井 義次	昭和30年6月1日	～	昭和36年5月31日
	第3代	四方 博	昭和36年6月1日	～	昭和42年5月31日
	第4代	今西 錦司	昭和42年6月1日	～	昭和48年5月31日
	第5代	林 金雄	昭和48年6月1日	～	昭和52年5月31日
	第6代	館 正知	昭和52年6月1日	～	昭和58年5月31日
	第7代	早野 三郎	昭和58年6月1日	～	平成元年5月31日
	第8代	加藤 晃	平成元年6月1日	～	平成7年5月31日
	第9代	金城 俊夫	平成7年6月1日	～	平成13年5月31日
	第10代	黒木 登志夫	平成13年6月1日	～	平成20年3月31日
	第11代	森 秀樹	平成20年4月1日	～	平成26年3月31日
	第12代	森脇 久隆	平成26年4月1日	～	



建物配置図



- ① 大学本部

② 教育学部

③ 美術・技術棟

④ 音楽棟

⑤ 保健体育棟

⑥ 附属特別支援教育センター

⑦ 地域科学部

⑧ 医学系研究科・医学部

⑨ 医学部生命科学棟

⑩ 医学部教育・福利棟

⑪ 医学部記念会館

⑫ 医学図書館

⑬ 医学部看護学科

⑭ 医学教育開発研究センター

⑮ 附属地域医療医学センター

⑯ 医学部附属病院

⑰ 工学部

⑱ 機械系第1実験棟

⑲ 機械系第2実験棟

⑳ 機械系第3実験棟

㉑ 化学実験・実習施設棟

㉒ 防災工学実験棟

㉓ 土木系実験棟

㉔ 高電圧実験棟

㉕ 機械工場

㉖ ものづくり技術教育支援センター

㉗ 附属インフラマネジメント技術研究センター

㉘ 応用生物科学部

㉙ 農場管理棟

㉚ 附属岐阜フィールド科学教育研究センター

㉛ 附属動物病院

㉜ 附属野生動物管理学研究センター

㉝ 附属比較がんセンター

㉞ 附属共同獣医学教育開発推進センター

㉟ 大学院連合農学研究科

㊱ 大学院連合獣医学研究科

㊲ 図書館

㊳ 総合研究棟Ⅰ

㊴ 総合研究棟Ⅱ

㊵ 全学共通教育講義棟

㊶ 研究推進・社会連携機構

㊷ 産官学連携推進本部

㊸ 次世代エネルギー研究センター

㊹ 次世代金型技術研究センター

㊺ 地域減災研究センター
- ㊻ 微生物遺伝資源保存センター

㊼ 地域協学センター

㊽ 流域圏科学研究センター

㊾ 生命科学総合研究支援センター（ゲノム研究分野）

㊿ 生命科学総合研究支援センター（嫌気性菌研究分野）

① 生命科学総合研究支援センター（動物実験分野）

② 生命科学総合研究支援センター（機器分析分野）

③ 生命科学総合研究支援センター（R I 管分野）

④ 総合情報メディアセンターA館

⑤ 総合情報メディアセンターB館

⑥ 総合情報メディアセンターC館

⑦ 留学生センター

⑧ 保健管理センター

⑨ 大学会館

⑩ 国際交流会館

⑪ 柳戸会館

⑫ 黒野寮

⑬ 講堂

⑭ 体育館

⑮ 武道館

⑯ 第二体育館

⑰ 第二食堂

⑱ 岐阜薬科大学校舎

⑲ 岐阜健康長寿・創薬推進機構（7階）

⑳ 大学院連合創薬医療情報研究科（8階）

㉑ 清流の国ぎふ防災・減災センター

㉒ 陸上競技場

㉓ 野球場

㉔ サッカー場

㉕ ラグビー場

㉖ テニスコート

㉗ バスケットボールコート

㉘ バレーボールコート

㉙ ハンドボールコート

㉚ プール

㉛ 弓道場

㉜ 馬場

㉝ コンビニエンスストア



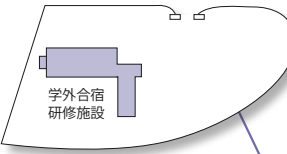
土地・建物

平成 28 年 5 月 1 日現在

地 区	区 分	建 物 (m ²)	土 地 (m ²)
柳 戸 地 区	本部棟	4,000	520,826
	教育学部	18,686	
	地域科学部	3,680	
	地域科学部・共通教育講義棟	13,433	
	医学部（看護学科）	7,197	
	工学部	48,797	
	応用生物科学部	27,842	
	大学院連合農学研究科・連合獣医学研究科	2,301	
	動物病院	3,297	
	図書館（講堂含む）	8,853	
	流域圏科学研究センター	1,112	
	生命科学総合研究支援センター	2,843	
	総合情報メディアセンター	2,311	
	留学生センター	336	
	研究推進・社会連携機構	3,906	
	国際交流会館	4,285	
	大学会館、第二食堂、柳戸会館	6,465	
	体育・課外活動施設	6,513	
	黒野寮	5,045	
	保育園	249	
	排水処理施設、中央機械室、 中継ポンプ室、特高受変電室外	1,847	
	総合研究棟Ⅱ	5,880	124,337
	医学部・同附属病院	114,424	
	大学院連合創薬医療情報研究科（岐阜薬科大学校舎8階）	(1,305)	
柳戸地区合計		293,302 (1,305)	645,163
長 良 地 区	学外合宿研修施設	1,304	3,396
吉 野 町 地 区	サテライトキャンパス	(591)	
加 納 地 区	教育学部附属小・中学校	13,531	30,608
大 垣 地 区	旧早野邸セミナーハウス	228	5,538
美濃加茂地区	応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター	1,590	95,832
	美濃加茂農場		(18)
下 呂 地 区	応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター	1,103	5,539,302
	位山演習林		(2,461)
高 山 地 区	流域圏科学研究センター高山試験地	778	(207,597)
その他	職員宿舎	8,813	18,223
合 計		320,649 (1,896)	6,338,062 (210,076)

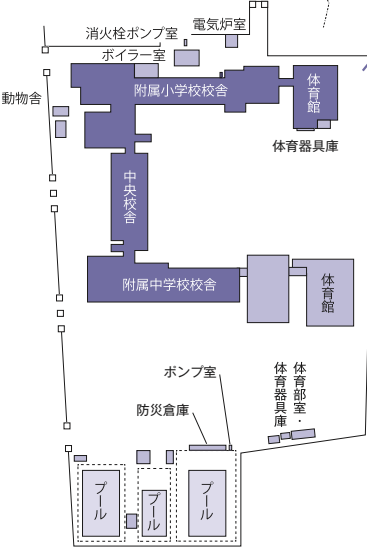
() 内の数は借用地で、外数である

学外合宿研修施設(岐阜市長良竜東町)
大学から約 5km 車で約 15 分



岐阜大学
(岐阜市柳戸 1 番 1)
JR 岐阜駅から約 7km 車で約 20 分
新幹線岐阜羽島駅から約 20km
車で約 40 分

旧早野邸セミナーハウス
(大垣市昼飯町)
JR 大垣駅から約 6km 車で約 15 分



教育学部附属学校(岐阜市加納大手町)
JR 岐阜駅から約 1.2km 車で約 5 分



流域圏科学研究センター
高山試験地(高山市岩井町)
JR 高山駅から約 22km 車で約 50 分



福井県

長野県

応用生物科学部附属岐阜フィールド
科学教育研究センター位山演習林
(下呂市萩原町)
JR 上呂駅から約 10km 車で約 20 分



応用生物科学部附属岐阜フィールド
科学教育研究センター美濃加茂農場
(美濃加茂市牧野)
JR 古井駅から約 6km 車で約 10 分



所在地・交通案内

	部局・施設等	電 話 番 号		F A X番号		郵便番号	住 所
柳戸地区	大 学 本 部	(058)	230-1111 (代表)	(058)	293-2021	501-1193	岐阜市柳戸1番1
	教育学部 / 教育学研究科 ・附属特別支援教育センター	(058)	293-2203 293-2350	(058)	293-2207 293-2355		
	地域科学部 / 地域科学研究科	(058)	293-3002	(058)	293-3008		
	工学部 / 工学研究科 ・附属インフラマネジメント技術研究センター ・ものづくり技術教育支援センター	(058)	293-2365 293-2419 293-2555	(058)	293-2389 293-2419 293-2555		
	応用生物科学部 / 応用生物科学研究科 ・附属岐阜フィールド科学教育研究センター ・附属動物病院 ・附属野生動物管理学研究センター ・附属比較がんセンター ・附属共同獣医学教育開発推進センター ・附属家畜衛生地域連携教育研究センター	(058)	293-2834 293-2972 293-2962 293-2959 293-2884 293-3408 293-2834	(058)	293-2840 293-2977 293-2964 293-2959 293-2884 293-2841 293-2840		
	連合農学研究科	(058)	293-2984	(058)	293-2992		
	連合獣医学研究科	(058)	293-2987	(058)	293-2992		
	図 書 館	(058)	293-2184	(058)	293-2194		
	地域協学センター	(058)	293-3168	(058)	293-3167		
	流域圏科学研究センター	(058)	293-2061	(058)	293-2062		
	生命科学総合研究支援センター	(058)	293-3171	(058)	293-3172		
	総合情報メディアセンター	(058)	293-2041	(058)	293-2044		
	留学生センター	(058)	293-2142	(058)	293-2143		
	保健管理センター	(058)	293-2174	(058)	293-2177		
	教育推進・学生支援機構	(058)	293-2133	(058)	293-3382		
	研究推進・社会連携機構 ・次世代エネルギー研究センター ・次世代金型技術研究センター ・地域減災研究センター ・微生物遺伝資源保存センター	(058)	293-2025 293-2685 293-2496 293-3890 230-6184	(058)	293-2022 293-2734 293-2496 293-3891 230-6185		
	医学部 / 医学系研究科	(058)	230-6000 (代表)	(058)	230-6060	501-1194	
	医学部附属病院	(058)	230-6008	(058)	230-6080		
	医学教育開発研究センター	(058)	230-6470	(058)	230-6468		
	連合創薬医療情報研究科	(058)	230-7602	(058)	230-7604		
吉野	岐阜大学サテライトキャンパス	(058)	212-0390	(058)	212-0391	500-8844	岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウィング37東棟4階
加納	教育学部附属小学校 教育学部附属中学校	(058)	271-3545 271-3507	(058)	271-1816 272-3665	500-8482	岐阜市加納大手町74
大垣	旧早野邸セミナーハウス	(0584)	71-0151	(0584)	71-0151	503-2216	大垣市昼飯町1777
美濃	応用生物科学部附属 岐阜フィールド科学教育研究センター 美濃加茂農場	(0574)	25-2807	(0574)	25-2807	505-0016	美濃加茂市牧野1918-1
下呂	応用生物科学部附属 岐阜フィールド科学教育研究センター 位山演習林	(0576)	54-1611	(0576)	54-1477	509-2501	下呂市萩原町山之口
高山	流域圏科学研究センター 高山試験地	(0577)	31-1005	(0577)	31-1016	506-0815	高山市岩井町919-47

岐阜大学へのアクセス

バス・タクシー

【JR岐阜駅 / 名鉄岐阜駅から】

- ・岐阜大学まで約7km、バスで約30分、タクシーで約20分

鉄道

【JR名古屋駅 / 名鉄名古屋駅 / 近鉄名古屋駅から】

- ・JR岐阜駅まで、東海道本線(新快速)で約18分
- ・名鉄岐阜駅まで、名鉄名古屋本線(特急)で約29分

【岐阜羽島駅(新幹線)から】

- ・新羽島駅(岐阜羽島駅隣り)から名鉄岐阜駅まで、
名鉄羽島線で約30分
- ・タクシー利用の場合は、岐阜大学まで約40分

【中部国際空港から】

- ・名鉄岐阜駅まで、名鉄(空港特急・ミュースカイ)で約57分

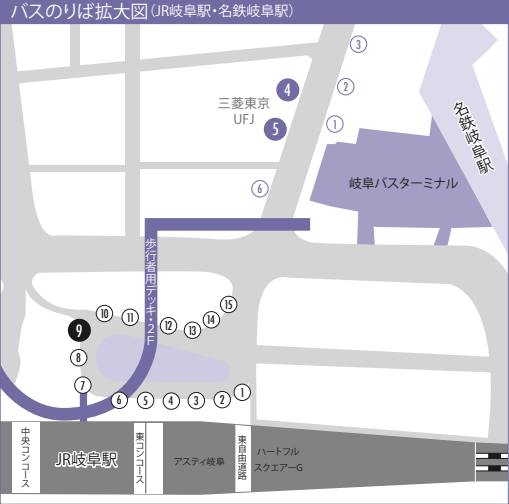
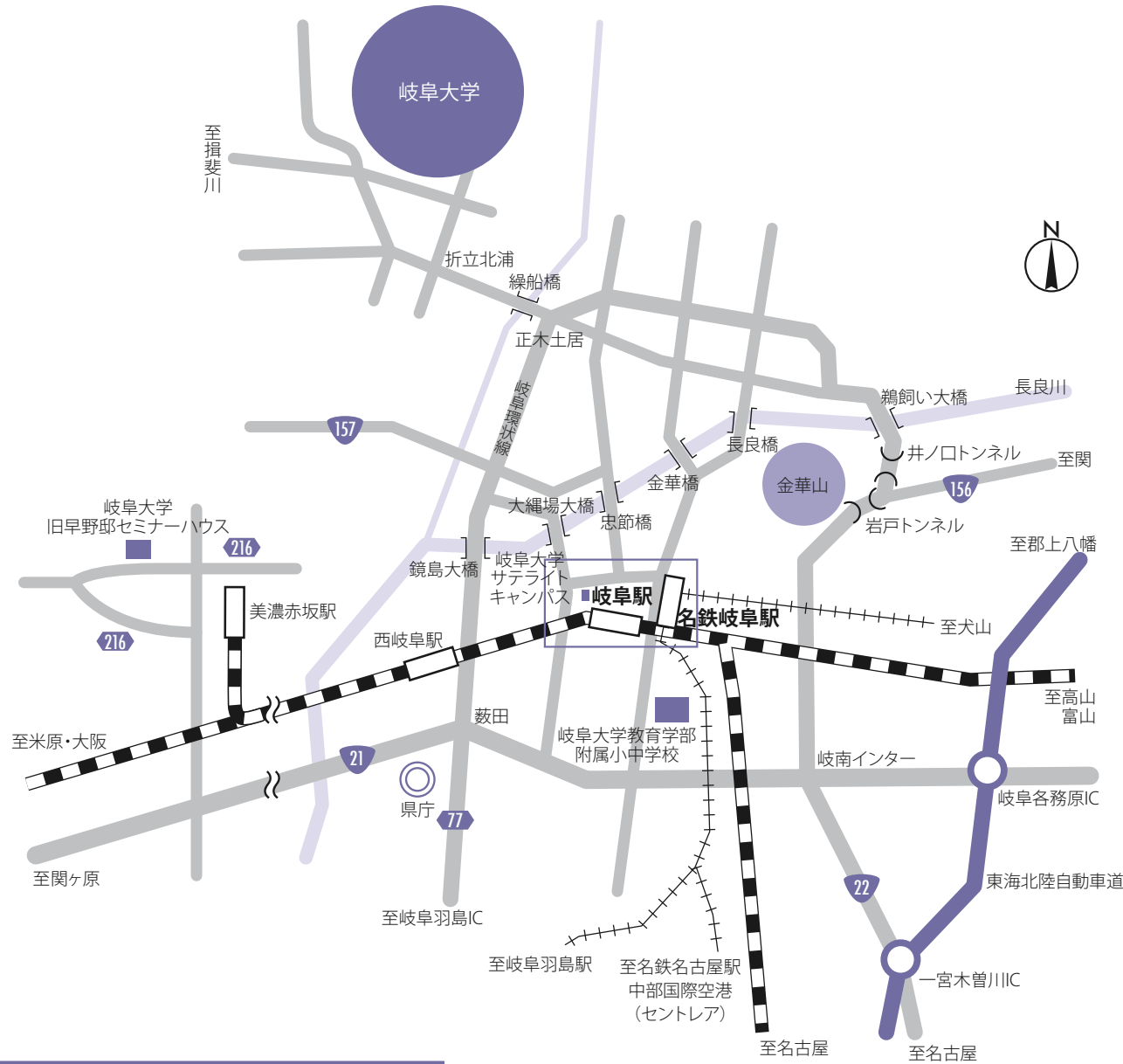
自家用車

【名神高速】

- ・岐阜羽島ICから岐阜環状線経由で、約40分(約20km)
- ・一宮ICから国道22号を北進し、
岐阜市街経由で、約50分(約25km)

【東海北陸自動車道】

- ・岐阜各務原ICから国道21号を西進し、
岐阜環状線経由で、約40分(約20km)



バスのりば案内

JR岐阜駅北口・バスターミナルのりば				
のりば	路線名	系統	行先	所要時間
JR岐阜-9	岐阜大学・病院線	C70	岐阜大学病院	約30分
JR岐阜-9	岐阜大学・病院線	C71	岐阜大学病院	清流ライナー 約25分
JR岐阜-9	岐阜大学・病院線	C72	岐阜大学病院	直行 約25分
JR岐阜-9	岐阜大学・病院線	C72	岐阜大学	直行 約30分
JR岐阜-9	岐南町線(長良橋経由)	N45	岐阜大学病院	約35分

名鉄岐阜のりば				
のりば	路線名	系統	行先	所要時間
名鉄岐阜-5	岐阜大学・病院線	C70	岐阜大学病院	約30分
バスターミナル-E	岐阜大学・病院線	C72	岐阜大学病院	直行 約25分
バスターミナル-E	岐阜大学・病院線	C72	岐阜大学	直行 約30分
名鉄岐阜-4	岐南町線(長良橋経由)	N45	岐阜大学病院	約35分

- ・バスはすべて「岐阜大学」に停車。バス系統Cは、忠節橋経由
- ・直行便は、学休日・土・日曜日運休
- ・清流ライナーは、岐阜大学まで3つの停留所のみ停車する130名乗車可能な連節バス



[編集] 岐阜大学総合企画部総務課広報室 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL. 058-230-1111(代表) 058-293-2009 FAX. 058-293-2021
<http://www.gifu-u.ac.jp>